

# Sun Control Station

---

AllStart モジュール

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 817-5898-10  
2004 年 4 月 , [Revision A](#)

本マニュアルについてのご意見は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> までお寄せください。

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布、および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、サンのロゴマーク、Java、JavaServer Pages、JSP、JumpStart、Netra、Solaris、Sun Cobalt、Sun Cobalt RaQ、Sun Cobalt CacheRaQ、Sun Cobalt Qube、Sun Fire、および Ultra は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

Netscape および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における、米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装する米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されるほか、米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に準拠します。

U.S. Government Rights - Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われたいものとします。

---



Please  
Recycle



Adobe PostScript

# 目次

---

## 1. はじめに 1

必要条件 3

概要 4

ペイロードの作成 4

プロファイルの作成 5

クライアントの指定 5

クライアントの有効化または無効化 6

クライアントへのペイロードとプロファイルの  
インストール 6

Sun Control Station への新規クライアントのインポート 7

一般情報 8

「Task Progress」ダイアログ 8

## 2. AllStart の機能 9

ファイル 10

ファイルの追加 10

ファイルの削除 11

ディストリビューション 13

ディストリビューションの追加 13

ディストリビューションの変更 16

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| デистриビューションの削除                | 16 |
| ペイロード                          | 18 |
| ペイロードの追加                       | 18 |
| Sun Java Desktop System ペイロード  | 18 |
| Red Hat ペイロード                  | 20 |
| ペイロードの表示                       | 23 |
| ペイロードの変更                       | 23 |
| ペイロードの削除                       | 24 |
| プロファイル                         | 25 |
| プロファイルの追加                      | 25 |
| Sun Java Desktop System プロファイル | 25 |
| ディスクパーティション情報                  | 28 |
| クライアント構成情報                     | 31 |
| X Window の設定                   | 34 |
| カスタムスクリプトオプション                 | 35 |
| Red Hat プロファイル                 | 37 |
| ディスクパーティション情報                  | 40 |
| 認証情報                           | 43 |
| X Window の設定                   | 44 |
| カスタムスクリプトオプション                 | 45 |
| プロファイルの表示                      | 48 |
| プロファイルの修正                      | 48 |
| プロファイルの削除                      | 49 |
| クライアント                         | 50 |
| クライアントの追加                      | 50 |
| 新規クライアントの追加                    | 51 |
| 新規 AutoDiscovery クライアントの追加     | 55 |
| 管理対象ホストのクライアントとしての追加           | 57 |

|                                         |           |
|-----------------------------------------|-----------|
| クライアントリストのインポート                         | 58        |
| クライアントリストの XML 書式                       | 59        |
| ファイル例                                   | 59        |
| クライアントの有効化                              | 60        |
| クライアントの無効化                              | 61        |
| クライアントの表示                               | 61        |
| クライアントの修正                               | 62        |
| クライアントの削除                               | 62        |
| クライアントの構築                               | 63        |
| クライアントのビルドステータスの表示                      | 63        |
| サービス                                    | 64        |
| DCHP 情報の表示                              | 64        |
| DCHP 設定の修正                              | 65        |
| 新規 DHCP の情報を追加する                        | 66        |
| DHCP 情報を修正する                            | 67        |
| DHCP 情報を削除する                            | 68        |
| AutoDiscovery 機能                        | 68        |
| クライアントの AutoDiscovery 向け設定              | 69        |
| IP アドレスの範囲を指定する                         | 69        |
| AutoDiscovery クライアントを作成する               | 70        |
| AutoDiscovery クライアントを有効化する              | 70        |
| ホストマシンをネットブートする                         | 70        |
| Advanced                                | 71        |
| Sun JDS ソフトウェアを登録する                     | 71        |
| AllStart 初期設定の選択                        | 71        |
| <b>3. カスタマイズされたカーネルとトラブルシューティングについて</b> | <b>73</b> |
| カスタマイズされたカーネルの使用                        | 74        |

|                                                    |    |
|----------------------------------------------------|----|
| Sun Fire V60x サーバおよび Sun Fire V65x サーバに必要なデバイスドライバ | 75 |
| Ethernet ドライバ                                      | 75 |
| SCSI ドライバ                                          | 76 |
| 設定ファイルのカスタマイズ                                      | 77 |
| トラブルシューティング                                        | 78 |
| Terminal Windows                                   | 78 |
| 起動時の問題                                             | 78 |
| DHCP サーバまたは PXE ブートでの問題                            | 78 |
| 解決法                                                | 78 |
| pxelinux.0 のロード後にインストールプロセスがハングする                  | 79 |
| 解決法                                                | 79 |
| クライアント構成で起こり得る問題                                   | 80 |
| 解決法                                                | 80 |
| カーネルのブート中にビルドプロセスがハングする                            | 80 |
| 解決法                                                | 80 |
| インストール時の問題                                         | 81 |
| AllStart クライアントの再ビルド                               | 81 |
| Sun JDS クライアントのビルド時にシリアルコンソールの出力が中断される             | 82 |
| Sun JDS クライアントでのカーネルパラメータ                          | 82 |
| Sun JDS クライアントのビルド                                 | 83 |
| フレーム-バッファの問題                                       | 83 |
| 解決法                                                | 83 |
| X11 の構成上の問題                                        | 84 |
| 解決法                                                | 84 |

# 第1章

---

## はじめに

---

近年、Linux と Solaris™ の混在するデータが増えています。Sun™ Control Station は、そのようなシステムの多様性をサポートするために設計された統合型管理ソリューションです。

システム管理者にとって、クライアント上での初期インストールと設定に関連するタスクを単純化し、自動化すること、また多数のクライアントに特定の構成でインストール可能であることが、システム管理における主要な関心事となっています。

AllStart コントロールモジュールでは、Kickstart テクノロジーと AutoYaST テクノロジーが統合されており、Linux ベースのシステムと Solaris ベースのシステムの双方を高速かつ統一化された手法でインストール、カスタマイズできます。

Kickstart は Red Hat 機能の 1 つで、下に示すような Red Hat Linux インストール時のほとんどの作業を自動化します。

- 言語選択
- ネットワーク構成とディストリビューションソースの選択
- キーボード選択
- ブートローダのインストール
- ディスクパーティションとファイルシステムの作成
- マウス選択
- X Window システムサーバ設定
- タイムゾーン選択
- (初期) ルートパスワード選択
- ファイアウォールの設定
- セキュリティオプションの設定 (md5、yp など)
- 配布ペイロードのカスタマイズ

Kickstart では、通常はキーボードを使って入力するような情報を設定ファイルに含めることにより、インストールプロセスを自動的に実行できます。Kickstart はまた、Red Hat Linux のディストリビューションに含まれていないソフトウェアを追加インストールするために使うこともできます。

AutoYaST は、1 つまたは複数の Sun Java Desktop System を自動的かつユーザの介在なしにインストールできるシステムで、インストーラである YaST2 と完全に統合されています。

AutoYaST ツールは、1 つまたは複数のシステム設定が可能です。設定内容は制御ファイルに保管され、自動インストール時に読み込まれます。またインストーラによってさまざまな方法で利用されます。

AutoYaST による設定は XML ベースで行われ、設定内容は YaST2 の設定モジュールと完全な互換性があります。

AutoYaST を使用することで、同じ環境とハードウェアを共有し、類似のタスクを実行する複数のシステムを、並行して簡単にインストールできます。設定ファイル (制御ファイルと呼ぶ) は、既存の設定リソースを使用して作成されます。制御ファイルは、それぞれ特定の環境に従って簡単にカスタマイズできます。

AllStart コントロールモジュールは、ソフトウェアペイロードの作成、クライアントプロファイルの定義、およびシステムインストールとアップグレードのモニタ / 確認用の共通ユーザーインタフェースを提供します。

このモジュールで可能な作業は、次のとおりです。

- ファイルや RPM を選択し、クライアントに読み込む。
- 異なる OS ディストリビューションを選択し、クライアントに読み込む。
- ファイルや OS ディストリビューションで構成する、カスタマイズされたペイロードを作成する。
- 設定情報を含むプロファイルを作成する。
- ペイロードとプロファイルをロードするクライアントを追加する (クライアントの MAC [Media Access Layer] アドレスを使用)。

---

## 必要条件

AllStart コントロールモジュールを正しく動作させるためには、次の条件をすべて満たす必要があります。

- Sun Control Station からのペイロードを取得するため、クライアントが「ネットブート」用に設定されていること。
- AllStart コントロールモジュールを動作させる Control Station と同一のサブネット上に、他の DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバが存在しないこと。
- 以下に示すソフトウェアコンポーネントがクライアントにインストールされていること。
  - DHCP デーモン (dhcpd)
  - TFTP (Trivial File Transfer Protocol)
  - HTTP (Hypertext Transfer Protocol)
  - Network Files Sharing デーモン (nfsd)
- Sun Control Station 2.0 ソフトウェアを動作させるサーバ上に OS ディストリビューション (配布版 OS) の ISO イメージを保管する場合は、ハードディスクドライブ (HDD) に十分な管理容量を確保してください。

たとえば、通常の Linux OS ディストリビューションは約 600-800 M バイト程度になります。さらに、それら ISO ファイルはペイロードの作成時に他のディレクトリにコピーされるため、使用されるディスク容量はその倍を見積もる必要があります。

アップロード中に ISO イメージはマウントされ、RPM ファイルは /scs/data/allstart/iso/ ディレクトリにコピーされます。OS ディストリビューションの読み込みが成功すれば、ISO イメージは削除できます。

# 概要

---

**注** - 手続と UI 画面に関する説明については、第 2 章、9 ページの「AllStart の機能」を参照してください。

---

AllStart モジュールを使用するための手順は、大きく分けると次に示す 4 つの作業から構成されます。

1. ファイルとディストリビューションからペイロードを作成する。
2. 設定情報を含むプロファイルを作成する。
3. ペイロードとプロファイルをインストールするクライアントを選択し、クライアントエントリを有効化する。
4. ネットワークから起動 (「ネットブート」) するクライアントを設定し、そのクライアントを再起動して Sun Control Station からペイロードとプロファイルを受け取るようにする。

## ペイロードの作成

まず始めに、「ペイロード」を作成します。ペイロードは、OS ディストリビューションと、それと共にバンドルされる個別ファイルから構成されます。

ペイロードに含めたい OS ディストリビューションのコンポーネントを選択できます。個別ファイルは、ディストリビューションのインストール後に、クライアント上にインストールされます。

それらファイルやディストリビューションは、ローカルに保管あるいは CD-ROM 上に保管できます。ローカルに保管する場合、ディストリビューションは /scs/data/allstart/iso/ に保存する必要があります。

それぞれのペイロードには、一意の、記述的な名前を設定します。

## プロファイルの作成

次に、「プロファイル」の作成を行います。プロファイルとは、ペイロードに従ってクライアントに適用される設定情報を含むものです。セキュリティに関する設定も、プロファイルに設定できます。

プロファイル内には、次のような項目が含まれます。

- デフォルト言語
- キーボードの種類
- マウスの種類
- 設定するクライアントが配置されるタイムゾーン
- クライアント用ルートパスワード
- ペイロードインストール後にクライアントを再起動するかどうかの選択
- ブートローダオプション
- HDD 向けのパーティションオプション
- 認証情報
- X Configuration
- カスタムスクリプトオプション

## クライアントの指定

その後で、ペイロードとプロファイルをインストールするクライアントを指定します。

ここでは、次に示すパラメータに関する情報を入力します。

- MAC アドレス
- インストール IP アドレス
- インストールの種類
- シリアルコンソール出力ポート
- シリアルコンソールのボーレート
- ペイロードとプロファイルを読み込むインストールネットワークインタフェース (ethx)
- 読み込むペイロード
- 読み込むプロファイル
- クライアント上のネットワークインタフェースに関する情報

## クライアントの有効化または無効化

クライアントエントリを作成した後、「AllStart Clients」テーブル内でそのクライアントを「有効化」します。

クライアントを有効化することは、Software Management モジュール内のパッケージファイルをパブリッシュすることと似ています。Software Management では、パッケージファイルを Control Station に読み込んだ後、そのパッケージファイルを「パブリッシュ」して、管理対象のホストやその他の Control Station から見えるようにする必要があります。

同様に、AllStart でも AllStart Clients テーブル内のクライアントエントリを有効化して、ネットワーク上の対象のクライアントに見えるようにする必要があります。

クライアントエントリの有効化を行わなければ、そのクライアントエントリが「見え」ないため、ネットブートを行っても、そのクライアントはペイロードとプロファイルを受け取ることはできません。

## クライアントへのペイロードとプロファイルのインストール

最後に、クライアントをネットワークから起動するように設定します。

この設定を行うことで、クライアントを再起動すると、クライアントが Control Station からペイロードとプロファイルを「pull」動作で引き出せるようになります。また、この動作に対しては、「AllStart Clients」テーブル内でクライアントエントリを有効化する必要があります。

---

**注** - インストールは、Sun Control Station からクライアントへの、アクティブな「push」操作ではありません。クライアントは、Control Station から、ペイロードとプロファイルを「pull」しなければなりません。つまり、「AllStart Clients」テーブル内のクライアントエントリにしたがって、クライアントはペイロードとプロファイルを受け取ることになります。

---

# Sun Control Station への新規クライアントのインポート

クライアントにペイロードとプロファイルをインストールした後は、Add Host 機能 (「Administration」>「Hosts」>「Add」) を使用して、Sun Control Station フレームワークにクライアントをインポートできます。

コントロールステーションエージェント RPM を作成したペイロードにエクストラファイルとして追加できますが、手動で行う必要があります。Sun Control Station このエージェントがクライアント上にロードされている場合にのみ、そのクライアントをインポートできます。

新規クライアントのインポート方法についての詳細は、PDF『*Sun Control Station - 管理者マニュアル*』(Part No. 817-3603-xx) を参照してください。

# 一般情報

## 「Task Progress」ダイアログ

プロファイルの保存やディストリビューションのアップロードなどのタスクを起動すると、「Task Progress」ダイアログが表示されます。このダイアログには、タスクの現在の状態を示す「Status」フィールドと進行状況バーが表示されます。進行状況バーが 100% になったら、タスクは完了です。

現在のタスクの実行中に UI で別のタスクを実行する場合は、「Task Progress」ダイアログをバックグラウンドに移動できます。バックグラウンドに移動するには、進行状況バーの下にある「Run Task In Background」ボタンをクリックします。

「Task Progress」ダイアログに戻るには、左側の「Administration」>「Tasks」を選択します。タスクのテーブルが表示されます。タスクがまだ実行中の場合は、「Duration」列にステータスメッセージが表示されます。この列の進行状況バーのアイコンをクリックすると、このタスクの「Task Progress」ダイアログが再表示されます。

タスクが完了し、進行状況バーが 100% になったら、「Task Progress」ダイアログの下に「Done」と「View Events」の 2 つのボタンが表示されます。

- 完了したタスクに関連するイベントのリストを表示するには、「View Events」をクリックします。「Events For <タスク>」テーブルが表示されます。右上にある上矢印のアイコンをクリックすると、「Tasks」テーブルが表示されます。
- 前の画面に戻るには、「Done」をクリックします。

## 第2章

---

# AllStart の機能

---

この章では、Sun™ Control Station の AllStart コントロールモジュールを通じて利用可能な機能とサービスについて説明します。

---

**注** - この章に示すほとんどの手順では、最初のステップで左側のメニューバーにある「AllStart」をクリックし、2 番目のステップでサブメニューの項目をクリックします。

各手順のステップ数を減らすため、これらのメニューコマンドをまとめています。各項目の間に大なり括弧を入れています。

たとえば、「AllStart」>「クライアント」は、左側のメニューバーにある「AllStart」をクリックしてから、サブメニューの「クライアント」項目をクリックすることを意味します。

---

# ファイル

## ファイルの追加

ファイルは、リモートの場所または Control Station のローカルディレクトリから追加できます。

リモートの場所からファイルを追加する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「ファイル」 を選択します。  
「AllStart ファイル」 テーブルが表示されます。
2. 右下の「追加」 をクリックします。  
「リモートの場所からのファイルの追加」 テーブルが表示されます。図 2-1 を参照してください。
3. プルダウンメニューから、ファイルの種類（「RPM」 または 「ファイル」 ）を選択します。
4. 次のいずれかの方法でファイルを探します。
  - 「ファイル」 の横のラジオボタンをクリックします。パスとファイル名を入力するか、ボタンをクリックしてファイルを指定します。
  - 「URL」 の横のラジオボタンをクリックします。ファイルの URL を入力します。
5. 「ただちにアップロード」 をクリックします。  
「Task Progress」 ダイアログが表示されます。

図 2-1 「リモートの場所からのファイルの追加」 テーブル

Control Station のローカルファイルシステムからファイルを追加する手順は、次のとおりです。

---

**注** - この画面にファイルを表示するには、そのファイルが Control Station のディレクトリ /scs/data/allstart/iso/ に読み込まれていなければなりません。

---

1. 「AllStart」 > 「ファイル」 を選択します。  
「AllStart ファイル」 テーブルが表示されます。
2. 右下の「追加」 をクリックします。  
「リモートの場所からのファイルの追加」 テーブルが表示されます。
3. テーブルの上にあるプルダウンメニューから、「ローカルファイルシステムからのファイルの追加」 を選択します。  
「Add File(s) from SCS Filesystem」 テーブルが表示されます。図 2-2 を参照してください。
4. プルダウンメニューから、ファイルの種類（「RPM」または「ファイル」）を選択します。
5. 「SCS Local Files」 スクロールウィンドウで、読み込むファイルを選択します。
6. 「追加」 をクリックして、「読み込むファイル」 スクロールウィンドウにファイルを移動します。
7. ファイルを選択したら、「ただちにアップロード」 をクリックします。  
「Task Progress」 ダイアログが表示されます。

## ファイルの削除

「AllStart ファイル」 テーブルからファイルを削除する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「ファイル」 を選択します。  
「AllStart ファイル」 テーブルが表示されます。
2. ファイルをクリックして選択します。上の「すべてを選択」 をクリックすれば、リスト内のすべてのファイルを選択できます。
3. 右下の「削除」 をクリックします。  
ダイアログが表示され、削除の実行を確認されます。
4. 「削除」 をクリックします。  
「Task Progress」 ダイアログが表示されます。

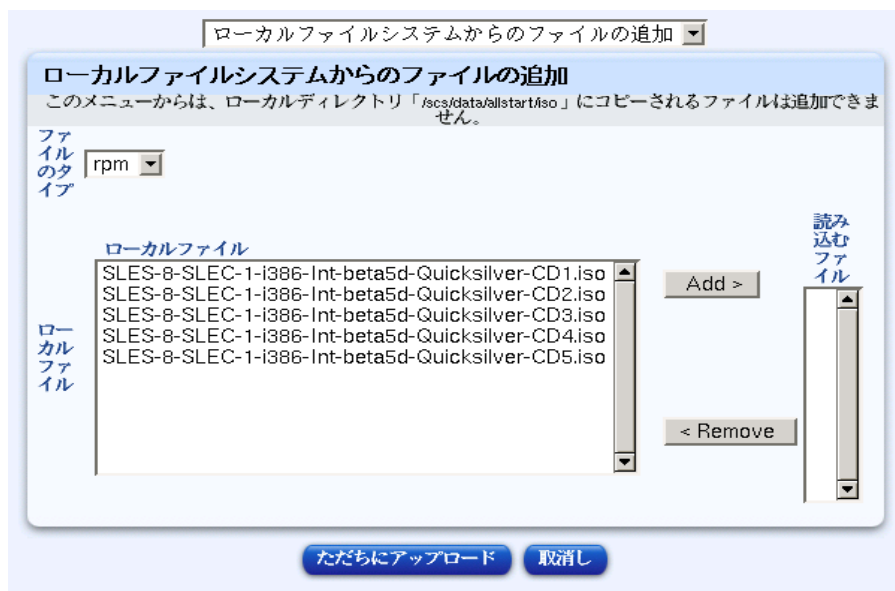


図 2-2 「Add File(s) from SCS Filesystem」 テーブル

---

# ディストリビューション

ディストリビューションは、追加、変更、または削除できます。

---

**注** - ディストリビューションでは、カスタマイズされたカーネルを使用できます。詳細は、74 ページの「カスタマイズされたカーネルの使用」を参照してください。

---

## ディストリビューションの追加

ディストリビューションは、CD-ROM またはローカルディレクトリから追加できます。

---

**注** - CD-ROM から OS ディストリビューションをアップロードする場合は、「Task Progress」ダイアログが表示されたときにオプションの「Put Task in Background」をクリックしないでください。

クリックすると、次の CD-ROM に進むことができず、ディストリビューション全体がアップロードされません。

万一、タスクをバックグラウンドに移動した場合は、このディストリビューションを「AllStart Distributions」テーブルから削除し、同じ手順を最初からやり直す必要があります。

---

CD-ROM からディストリビューションを追加する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「ディストリビューション」を選択します。  
「AllStart ディストリビューション」テーブルが表示されます。
2. 右下の「追加」をクリックします。  
「Upload Distribution from CD-ROM」テーブルが表示されます ( 図 2-3 を参照 )。
3. ディストリビューションの説明を入力します。

---

**注** - それぞれのディストリビューションについて、一意の、記述的な名前を使用することが重要です。システムはこの記述に基づいてディストリビューションを区別しています。

---

4. CD-ROM へのデフォルトのパスは /dev/cdrom です。

このパスは必要に応じて変更できます。

5. 「ただちにアップロード」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

---

**注** - オプションの「Put Task in Background」は **クリックしないでください**。

クリックすると、次の CD-ROM に進むことができず、ディストリビューション全体がアップロードされません。

万一、タスクをバックグラウンドに移動した場合は、このディストリビューションを「AllStart Distributions」テーブルから削除し、同じ手順を最初からやり直す必要があります。

---



図 2-3 「Upload Distribution from CD-ROM」テーブル

Control Station のローカルディレクトリからディストリビューションを追加する手順は、次のとおりです。

---

**注** - この方法では、物理的な .iso ファイルをディレクトリ /scs/data/allstart/iso/ のローカルファイルシステムに読み込み、「ディストリビューションのアップロード」テーブルのスクロールウィンドウに表示させます。

---

**注** - ローカルディレクトリにあるディストリビューションを表示する場合、それぞれのディストリビューションの \*.iso ファイルは名前ですべて置換されます。ファイル名には通常、ディスク番号 (SLES-8-SLEEC-1-i386-Int-beta5d-Quicksilver-CD1.iso など) が含まれます。

この場合、1 つのディストリビューションについて、必ずすべての \*.iso ファイルを同時に選択および転送する必要があります。

---

1. 「AllStart」 > 「ディストリビューション」を選択します。  
「AllStart ディストリビューション」テーブルが表示されます。
2. 右下の「追加」をクリックします。  
「Upload Distribution from CD-ROM」テーブルが表示されます。
3. テーブルの上にあるプルダウンメニューから、「Add Distribution from SCS ISOs」を選択します。  
「Distribution Upload」テーブルが表示されます ( 図 2-4 を参照 )。
4. ディストリビューションの説明を入力します。

**注** - それぞれのディストリビューションについて、一意の、記述的な名前を使用することが重要です。システムはこの記述に基づいてディストリビューションを区別しています。

5. 「SCS Local Files」スクロールウィンドウで、読み込むファイルを選択します。
6. 「追加」をクリックして、「ディストリビューションファイル」スクロールウィンドウにファイルを移動します。
7. ファイルを選択したら、「ただちにアップロード」をクリックします。  
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

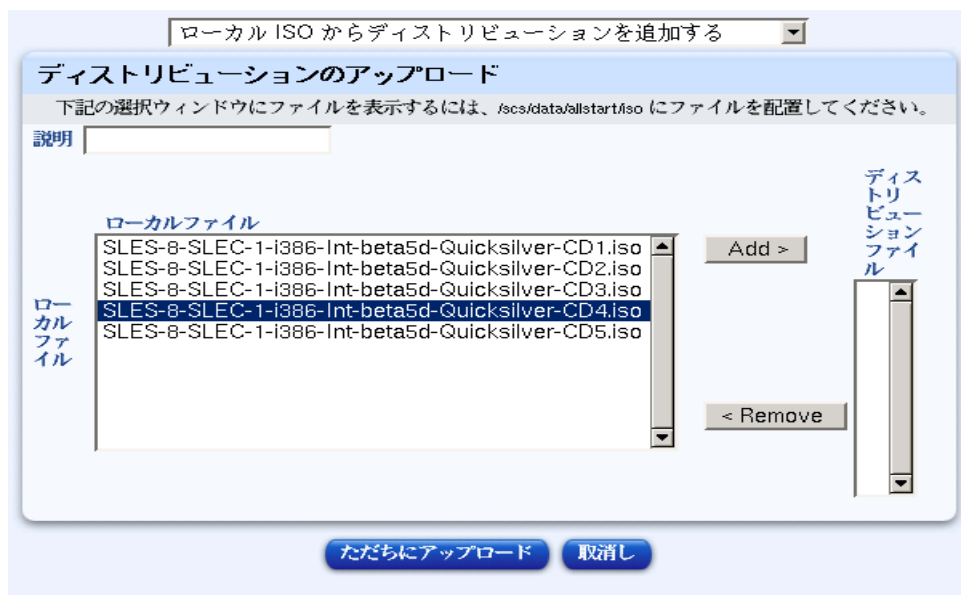


図 2-4 「ディストリビューションのアップロード」テーブル

## ディストリビューションの変更

---

**注** - 「変更」オプションを使用して、ディストリビューションに関連するファイルを変更することはできません。ファイルを変更するには、新しいディストリビューションを作成する必要があります。

---

ディストリビューションを変更する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「ディストリビューション」を選択します。  
「AllStart ディストリビューション」テーブルが表示されます。
2. ディストリビューションをクリックして選択します。
3. 右下の「Modify」をクリックします。  
「ディストリビューション情報の変更」テーブル
4. ディストリビューションの説明を変更することができます。

---

**注** - それぞれのディストリビューションについて、一意の、記述的な名前を使用することが重要です。システムはこの記述に基づいてディストリビューションを区別しています。

---

5. 「保存」をクリックします。  
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

## ディストリビューションの削除

「AllStart ディストリビューション」テーブルからディストリビューションを削除する手順は、次のとおりです。

---

**注** - ディストリビューションがあるペイロードを参照している場合、そのディストリビューションは削除できません。その場合は、まずそのペイロードを変更または削除する必要があります。

---

1. 「AllStart」 > 「ディストリビューション」を選択します。  
「AllStart ディストリビューション」テーブルが表示されます。
2. ディストリビューションをクリックして選択します。上の「すべてを選択」をクリックすれば、リスト内のすべてのディストリビューションを選択できます。

**3. 右下の「削除」をクリックします。**

ディストリビューションがあるペイロードを参照している場合、そのディストリビューションは削除できません。

ディストリビューションがペイロードを参照していない場合は、ダイアログが表示され、削除の確認を求められます。

**4. 「削除」をクリックします。**

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

# ペイロード

ペイロードは、追加、表示、変更、または削除できます。

## ペイロードの追加

Sun Java Desktop System (JDS) ペイロードまたは Red Hat ペイロードを作成できます。

---

**注** - AllStart の初期設定で表示する OS ディストリビューションを 1 つだけ選択した場合は、AllStart の手順で「Select System Type」選択ウィンドウが表示されません。手順が直接開始されます。

詳細は、71 ページの「Advanced」を参照してください。

---

## Sun Java Desktop System ペイロード

Sun JDS ペイロードを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「ペイロード」を選択します。  
「AllStart ペイロード」テーブルが表示されます。
2. 下の「追加」をクリックします。  
「Select System Type」テーブルが表示されます。
3. タイプ `sjds` を選択します。
4. 下の「続行」をクリックします。  
「Create AllStart Payload」テーブルが表示されます。
5. 次の情報を入力します。
  - ペイロード名。それぞれのペイロードについて、一意の、記述的な名前を入力します。

---

**注** - それぞれのペイロードについて、一意の、記述的な名前を使用することが重要です。システムはこの名前に基づいてペイロードを区別します。

---

- ペイロードの説明。このペイロードの説明を入力します。
- ディストリビューション。プルダウンメニューから、このペイロードに関連付けるディストリビューションを選択します。

6. 「次へ」をクリックします。

Sun JDS ペイロードについて、「AllStart Payload Distribution-Specific Options」テーブルが表示されます (図 2-5 を参照)。

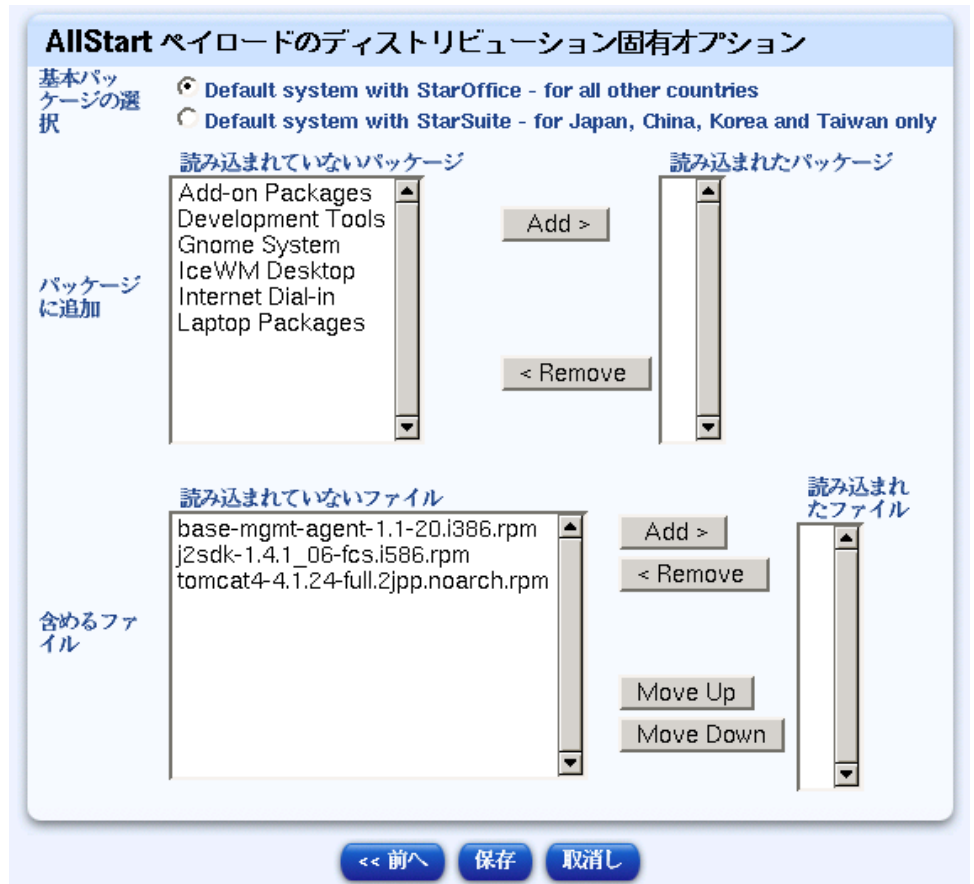


図 2-5 「SJDS - AllStart Payload Distribution-Specific Options」 テーブル

7. 「基本パッケージ」 選択ウィンドウで、地域に適したオプションのラジオボタンをクリックします。

- 「Default system with StarOffice」 - 下記の国以外のすべて
- 「Default system with StarSuite」 - 日本、中国、韓国、台湾のみ

8. 「読み込まれていないパッケージ」 スクロールウィンドウで、読み込むパッケージを選択します。

「アドオンパッケージ」は、機能に基づいて読み込むための RPM のグループです (「Development Tools」または「Laptop Packages」など)。

9. 「追加」をクリックして、「読み込まれたパッケージ」スクロールウィンドウにパッケージを移動します。
10. 「読み込まれていないファイル」スクロールウィンドウで、読み込むファイルを選択します。

これらは、基本のディストリビューションが読み込まれた後にそれぞれ読み込まれます。

base-mgmt-agent RPM は、「読み込まれていないファイル」スクロールウィンドウにあります。しかし、「読み込まれたファイル」スクロールウィンドウに移動する必要があります。
11. 「追加」をクリックして、「読み込まれたファイル」スクロールウィンドウにファイルを移動します。
12. 「保存」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。
13. 終了すると、「AllStart ペイロード」テーブルが表示されます。指定したペイロードが概要テーブルに表示されていることを確認します。

## Red Hat ペイロード

Red Hat ペイロードを作成する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」>「ペイロード」を選択します。

「AllStart ペイロード」テーブルが表示されます。
2. 下の「追加」をクリックします。

「Select System Type」テーブルが表示されます。
3. タイプ `redhat` を選択します。
4. 下の「続行」をクリックします。

「Create AllStart Payload」テーブルが表示されます。
5. 次の情報を入力します。
  - ペイロード名。それぞれのペイロードについて、一意の、記述的な名前を入力します。

---

**注** - それぞれのペイロードについて、一意の、記述的な名前を使用することが重要です。システムはこの名前に基づいてペイロードを区別します。

---

- ペイロードの説明。このペイロードの説明を入力します。
- ディストリビューション。プルダウンメニューから、このペイロードに関連付けるディストリビューションを選択します。

6. 「次へ」をクリックします。

Red Hat ペイロードについて、「AllStart Payload Distribution-Specific Options」テーブルが表示されます (図 2-6 を参照)。

7. 「読み込まれていないグループ」スクロールウィンドウで、読み込むグループを選択します。

「ディストリビューショングループ」は、機能に基づいて読み込むための RPM のグループです (DNS サーバ、「Games and Entertainment support」、「Printing support」、「Emacs support」など)。

エントリとして「Everything」を選択すると、そのディストリビューションのすべての RPM が追加されます。

追加するグループを特定できない場合は、すべてのグループを追加します。

8. 「追加」をクリックして、「読み込まれたグループ」スクロールウィンドウにグループを移動します。

9. 「読み込まれていないファイル」スクロールウィンドウで、読み込むファイルを選択します。

これらは、基本のディストリビューションが読み込まれた後にそれぞれ読み込まれます。

base-mgmt-agent RPM は、「読み込まれていないファイル」スクロールウィンドウにありますが、「読み込まれたファイル」スクロールウィンドウに移動する必要があります。

10. 「追加」をクリックして、「読み込まれたファイル」スクロールウィンドウにファイルを移動します。

---

**注** - 「読み込まれたファイル」スクロールウィンドウに複数のファイルを移動する場合は、インストールする正しい順序にファイルを配置する必要があります。ファイルはリストの最上部からインストールされます。

リスト内の順序は、ファイルを選択して、「Move Up」または「Move Down」ボタンを使用して変更できます。

---

11. このペイロードを Sun Fire™ V60x または Sun Fire V65x サーバにインストールする場合は、チェックボックスをクリックして有効にします。

このオプションにより、Linux のインストールに必要な SCSI ドライバをクライアントが読み込むことができます。

12. 「保存」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

13. 終了すると、「AllStart ペイロード」テーブルが表示されます。指定したペイロードが概要テーブルに表示されていることを確認します。

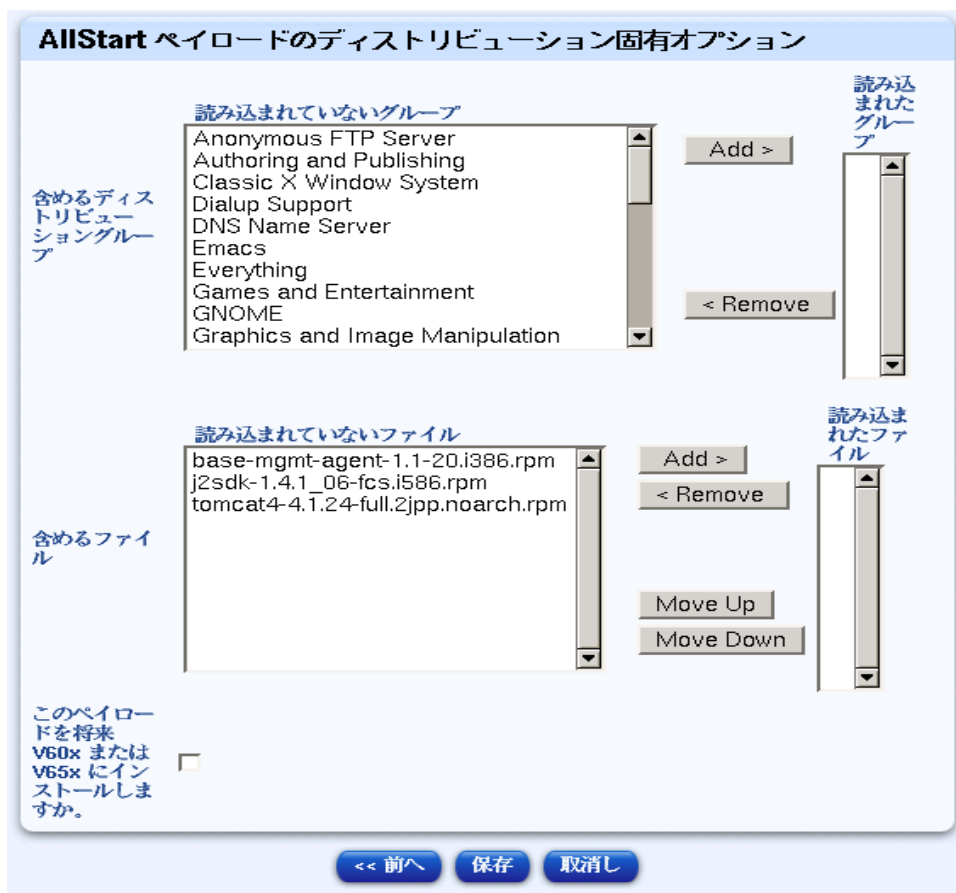


図 2-6 「Red Hat-AllStart Payload Distribution-Specific Options」 テーブル

## ペイロードの表示

ペイロードについての情報を表示する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「ペイロード」を選択します。  
「AllStart ペイロード」テーブルが表示されます。
2. ペイロードをクリックして選択します。
3. 「表示」をクリックします。  
「View AllStart Payload」テーブルに、次の情報が表示されます。
  - ペイロード名
  - ペイロードの説明
  - ペイロードに関連付けられているディストリビューション
  - ペイロードグループ
  - 個別のペイロードファイル ( ファイルがある場合 )
4. 「完了」をクリックすると、「AllStart ペイロード」テーブルに戻ります。

## ペイロードの変更

ペイロードを変更する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「ペイロード」を選択します。  
「AllStart ペイロード」テーブルが表示されます。
2. ペイロードをクリックして選択します。
3. 下の「変更」をクリックします。  
「Modify AllStart Payload」テーブルが表示されます。
4. 必要に応じて次のフィールドを変更します。
  - ペイロード名。それぞれのペイロードについて、一意の、記述的な名前を入力します。

---

**注** - それぞれのペイロードについて、一意の、記述的な名前を使用することが重要です。システムはこの名前に基づいてペイロードを区別します。

---

- ペイロードの説明。このペイロードの説明を入力します。
- ディストリビューション。プルダウンメニューから、このペイロードに関連付けるディストリビューションを選択します。

5. 「次へ」をクリックします。

「AllStart Payload Distribution-Specific Options」テーブルが表示されます。

このテーブルの詳細については、次を参照してください。

- Sun JDS ペイロードを変更する場合は、18 ページの「Sun Java Desktop System ペイロード」を参照してください。
- Red Hat ペイロードを変更する場合は、20 ページの「Red Hat ペイロード」を参照してください。

6. 「保存」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

7. 終了すると、「AllStart ペイロード」テーブルが表示されます。指定したペイロードが概要テーブルに表示されていることを確認します。

## ペイロードの削除

「AllStart ペイロード」テーブルからペイロードを削除する手順は、次のとおりです。

---

**注** - ペイロードがあるクライアントを参照している場合、そのペイロードは削除できません。その場合は、まずそのクライアントを変更または削除する必要があります。

---

1. 「AllStart」 > 「ペイロード」を選択します。

「AllStart ペイロード」テーブルが表示されます。

2. ペイロードをクリックして選択します。上の「すべてを選択」をクリックすれば、リスト内のすべてのペイロードを選択できます。

3. 右下の「削除」をクリックします。

- ペイロードがあるクライアントを参照している場合、そのペイロードは削除できません。
- ペイロードがクライアントを参照していない場合は、ダイアログが表示され、削除の確認を求められます。

4. 「削除」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

---

# プロファイル

プロファイルは、追加、表示、変更、または削除できます。

## プロファイルの追加

Sun Java Desktop System (JDS) プロファイルまたは Red Hat プロファイルを作成できます。

---

**注** - AllStart の初期設定で表示する OS ディストリビューションを 1 つだけ選択した場合は、AllStart の手順で「Select System Type」選択ウィンドウが表示されません。手順が直接開始されます。

詳細は、71 ページの「Advanced」を参照してください。

---

## Sun Java Desktop System プロファイル

---

**注** - ここで説明する手順には、設定パラメータを複数含む UI 画面が多数含まれます。

---

Sun JDS プロファイルを追加する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「プロファイル」を選択します。  
「AllStart プロファイル」テーブルが表示されます。
2. 下の「追加」をクリックします。  
「Select System Type」テーブルが表示されます。
3. タイプ `sjds` を選択します。
4. 下の「続行」をクリックします。  
「Add AllStart Profile」テーブルが表示されます ( 図 2-7 を参照 )。
5. 下記のパラメータを設定します。
  - 「プロファイル名」 - それぞれのプロファイルについて、一意の、記述的な名前を入力します。

---

**注** - それぞれのプロファイルについて、一意の、記述的な名前を使用することが重要です。システムはこの名前に基づいてプロファイルを区別します。

---

- 「プロファイルの説明」 - そのプロファイルに関する説明を入力します。
- デフォルト言語
- 「キーボードの種類」
- 「マウスの種類」
- 「サウンドカードのベンダー」 - スクロールウィンドウから選択します。
- 「サウンドカードの種類」 - スクロールウィンドウから選択します。
- 「タイムゾーン」 - プルダウンメニューから、設定対象ホストが設置されているタイムゾーンを選択します。
- 「root パスワード」 - このプロファイルを使用するホストの root パスワードを入力し、パスワードを確認します。
- 「インストール後にシステムをリブートする」 - ペイロードとプロファイルのインストール後にホストを再起動する場合は、このチェックボックスをクリックします。

6. テーブルの下にある「次へ」をクリックします。

「Edit Boot Loader Options」テーブルが表示されます (図 2-8 を参照)。

7. ブートローダについて、下記のパラメータを設定します。

---

**注** - シリアルコンソールを通じてマシンを構築するときに、ブートローダを選択する場合は、この手順の最後で、対応する Grub カスタマイズスクリプトを追加する必要があります。この作業は、ステップ 23で行います。

---

- ラジオボタンをクリックして、次のオプションの 1 つを選択します。
  - 「ブートローダを構成しない (自動的に構成)」
  - 「ブートディスクへのブートローダの書き込み (MBR)」
  - 「Linux ブートローダを使用しない (別のブートマネージャが必要)」
- カーネルパラメータ
- 「ブートローダパーティションのアクティブ化」 - このオプションはデフォルトで有効になっています。

8. テーブルの下にある「次へ」をクリックします。

「Disk Partition Information」テーブルが表示されます。図 2-9 に例を示します。

**AllStart プロファイルの追加**

プロファイル名:   
 プロファイルの説明:   
 オートデフォルトの言語: English (US)   
 キーボード: English (US)   
 マウス: PS/2 mouse (Aux-port)   
 サウンドカード: AD1816A, AD1815   
   AD1848/AD1847/CS4248  
   ALI M5451  
   AMD InterWave  
   AMD InterWave STB with TEA6330T  
 サウンドカード: AD1815, Analog Devices   
   AD1816A, Analog Devices  
   AudioSystem EWS64S, TerraTec  
   Aztech/Newcom SC-16 3D  
   Base 64, TerraTec  
 タイムゾーン: US/Pacific   
 rootパスワード:   
 確認パスワード:   
 システムインストール後にシステムリブートする: ☒

次へ >>    取消し

図 2-7 「Sun JDS-Add AllStart Profile」 テーブル

**ブートローダーオプションの編集**

☐ ブートローダーを構成しないでください (自動的に構成)。  
☒ ブートディスクへのブートローダーの書き込み (MBR)  
☐ Linux ブートローダーを使用しないでください (別のブートマネージャが必要)。  
 カーネルパラメータ:   
 ブートローダーパーティションのアクティブ化: ☒

<< 前へ    次へ >>    取消し

図 2-8 「Sun JDS-Edit Boot Loader Options」 テーブル

## ディスクパーティション情報

### 9. 別の選択ウィンドウが表示されます。

選択ウィンドウには、各パーティションについて次の項目が表示されます。

- デバイス / パーティション番号
- マウント
- サイズ (MB)
- 「ファイルシステムの種類」

### 10. 選択ウィンドウでは、ハードディスクドライブまたはパーティションを追加、編集、または削除できます。

---

**注** - このステップは繰り返し行うプロセスです。この選択ウィンドウでは、ハードディスクドライブまたはパーティションを任意に追加、編集、または削除できます。パーティションを設定したら、「次へ」をクリックしてクライアント構成オプションに移動します。

パーティションを追加する前に、ディスクを追加する必要があります。

---

---

**注** - 少なくとも、/root パーティションと 1 つのスワップパーティションを定義する必要があります。

---

#### a. 新しくハードディスクドライブを追加するには、「Add Disk」をクリックします。

「ディスクドライブのオプション」テーブルが表示されます (図 2-10 を参照)。下記のパラメータを設定します。

- 「ドライブ」 - プルダウンメニューからドライブを選択します。-
- ラジオボタンをクリックして、次のオプションの 1 つを選択します。
  - 「利用可能な空き容量のみを使用」
  - 「既存のパーティションの再使用」
- ハードディスクドライブを初期化するには、該当するチェックボックスを有効にします。

プルダウンメニューに新規ハードディスクドライブを追加するには、右側の「ディスクドライブの追加」をクリックします。「新規ディスクドライブの定義」テーブルが表示されます。新規ハードディスクドライブの名前を入力して、「保存」をクリックします。「ディスクドライブのオプション」テーブルが再度表示されます。

「保存」をクリックして続行します。

- b. 新規パーティションを追加するには、テーブル内のハードディスクドライブを選択して、選択ウィンドウの「Add Partition」をクリックします。

「Partition Options」テーブルが表示されます (図 2-11 を参照)。下記のパラメータを設定します。

- 「マウントポイント」
- 「Format」または「Do Not Format Partition」どちらかのラジオボタンをクリックします。
- 「ファイルシステムの種類」
- 「パーティションのサイズ (MB)」
- - ラジオボタンをクリックして、次のいずれかを選択します。
  - パーティションを固定サイズに制限する
  - パーティションが、ハードディスクドライブ上のすべての未割り当て領域を使用することを許可する
  - サイズを自動的に決定する (/boot and swap のみ)

プルダウンメニューに新規マウントディレクトリを追加するには、右側の「新規マウントディレクトリの追加」をクリックします。「新規マウントポイントの定義」テーブルが表示されます。新規マウントの名前を入力して、「保存」をクリックします。新規マウントポイントが追加された「パーティションのオプション」テーブルが表示されます。

- c. ハードディスクドライブを編集するには、テーブル内のハードディスクドライブを選択して、「編集」をクリックします。

「ディスクドライブのオプション」テーブルが表示されます。設定可能なパラメータは、新規ドライブを追加する場合と同じです。ステップ a の手順を参照してください。

- d. パーティションを編集するには、ハードディスクドライブの横の矢印をクリックして、そのドライブのパーティションを表示します。パーティションを選択して、「編集」をクリックします。

「Partition Options」テーブルが表示されます。設定可能なパラメータは、新規パーティションを追加する場合と同じです。ステップ b の手順を参照してください。

- e. ハードディスクドライブまたはパーティションを削除するには、選択ウィンドウ内のドライブまたは特定のパーティションを選択して、「削除」をクリックします。

選択ウィンドウが更新され、リストからそのドライブまたはパーティションが削除されます。

---

**注** - このタスクについては「Confirm Deletion」ダイアログがないため、ハードディスクドライブまたはパーティションに間違いがないかどうか確認してから削除してください。

---

### ディスクパーティションの情報

| デバイス / パーティション番号                                                                                                      | マウントポイント / RAID | サイズ (MB) | タイプ  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------|------|
| <input type="checkbox"/> ▼  /dev/sda |                 |          |      |
| <input type="checkbox"/>                                                                                              | /home           | 500      | ext3 |
| <input type="checkbox"/>                                                                                              | swap            | 2000     | swap |
| <input type="checkbox"/>                                                                                              | /var            | 500      | ext3 |
| <input type="checkbox"/>                                                                                              | /               | 500      | ext3 |
| <input type="checkbox"/> ▶  /dev/hda |                 |          |      |

図 2-9 「Sun JDS-Sample of a Disk Partition Information」 テーブル

### ディスクドライブのオプション

ドライブ

☒ 利用可能な空き容量のみを使用  
☐ 既存のパーティションの再使用

☒ ハードドライブの初期化

図 2-10 「Sun JDS-Disk Drive Options」 テーブル

図 2-11 「Sun JDS-Partition Options」 テーブル

11. テーブルの下にある「次へ」をクリックします。

「Client Configuration」 テーブルが表示されます (図 2-12 を参照)。

## クライアント構成情報

12. 下記のパラメータを設定して、クライアントを構成します。

---

**注** - 認証オプションについては、該当する Sun JDS ユーザーマニュアルで説明されています。

---

### a. NIS 認証

- NIS の有効化
- NIS ドメインの入力
- NIS サーバ検出のためのブロードキャストの使用
- NIS サーバの入力

### b. LDAP 認証

- LDAP の有効化
- LDAP サーバの入力
- LDAP ベース名の入力

**c. プロキシサービスの構成**

- プロキシサービスの有効化
- HTTP プロキシ
- FTP プロキシ
- ユーザー名 (必要に応じて)
- パスワード (必要に応じて)

**13. テーブルの下にある「次へ」をクリックします。**

「Client Configuration Continued」テーブルが表示されます (図 2-13 を参照)。

**14. 下記のパラメータを設定します。**

**a. 構成エージェントの設定**

- 構成エージェントの設定の有効化
- ホスト名を入力します。
- ポート名を入力します。
- ルートの場所を入力します。

**15. テーブルの下にある「次へ」をクリックします。**

「X Config Options」テーブルが表示されます (図 2-14 を参照)。

| クライアントの構成                 |                          |
|---------------------------|--------------------------|
| NIS 認証                    |                          |
| NIS の有効化                  | <input type="checkbox"/> |
| NIS ドメイン                  | <input type="text"/>     |
| NIS サーバーの検索にブロードキャストを使用する | <input type="checkbox"/> |
| NIS サーバー                  | <input type="text"/>     |
| LDAP 認証                   |                          |
| LDAP の有効化                 | <input type="checkbox"/> |
| LDAP サーバー                 | <input type="text"/>     |
| LDAP ベース名                 | <input type="text"/>     |
| プロキシサービスの構成               |                          |
| プロキシサービスの有効化              | <input type="checkbox"/> |
| HTTP プロキシ                 | <input type="text"/>     |
| FTP プロキシ                  | <input type="text"/>     |

図 2-12 「Sun JDS-Client Configuration」 テーブル

| クライアントの構成 (続き)  |                          |
|-----------------|--------------------------|
| 構成エージェントの設定     |                          |
| 構成エージェントの設定の有効化 | <input type="checkbox"/> |
| ホスト名            | <input type="text"/>     |
| ポート             | <input type="text"/>     |
| ルート場所           | <input type="text"/>     |

図 2-13 「Sun JDS-Client Configuration Continued」 テーブル

## X Window の設定

### 16. 下記のパラメータを設定します。

- ラジオボタンをクリックして、次の 3 つのオプションから 1 つを選択します。
  - X11 設定を自動的に検出しない
  - X11 設定を構成しない
  - X11 設定を手動で構成する

---

**注** - X11 設定を手動で構成する場合にのみ、次の設定を構成します。

---

- 3D サポート (可能な場合) を有効にするには、チェックボックスをクリックします。
- モニタの色深度と解像度を設定します。
- スクロールウィンドウからモニタのベンダーを選択します。
- スクロールウィンドウからモニタを選択します。



図 2-14 「Sun JDS-X Config Options」 テーブル

17. テーブルの下にある「次へ」をクリックします。

「Edit Custom Script Options」テーブルが表示されます ( 図 2-15 を参照 )。

### カスタムスクリプトオプション

このテーブルには、プロファイルに追加可能なカスタムスクリプトが多数含まれています。

---

**注** - このテーブルに他のカスタムスクリプトをアップロードする場合は、「Edit Custom Script Options」テーブルの下にある「保存」をクリックする前にアップロード操作を行う必要があります。

---

---

**注** - カスタムスクリプト `sun_client_dhcp.sh` により、クライアントの DHCP 設定を特定のデフォルト値に設定します。

---

カスタムスクリプトのアップロードを行わない場合は、ステップ 23 に進みます。



図 2-15 「Sun JDS-Edit Custom Script Options」テーブル

「Edit Custom Script Options」テーブルにカスタムスクリプトをアップロードする手順は、次のとおりです。

18. 「Upload Scripts」をクリックします。

「Upload User-defined Custom Scripts」テーブルが表示されます。

19. 「追加」をクリックします。

「Add a New Script From Local Filesystem」テーブルが表示されます ( 図 2-16 を参照 )。

## 20. 次の情報を入力します。

- スクリプトファイルのパスとファイル名を入力する。またはボタンをクリックしてスクリプトファイルを選択する。
- スクリプトに関する説明を入力する
- スクリプトの種類を選択する
  - 「Pre」 - スクリプトをインストールの前に実行します (ドライバなど)。
  - 「Post」 - スクリプトをインストールの後に実行します。
  - 「Postnoohroot」 - インストールの後に動作しますが、root としての実行を必要としません。
- スクリプトを実行するシステムの種類を選択します。「追加」または「削除」ボタンを使用して、スクロールウィンドウ間でスクリプトを移動します。

## 21. 「ただちにアップロード」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

アップロードが完了すると、カスタムスクリプトが「Upload User-defined Custom Scripts」テーブルに表示されます。

このテーブルから、他のスクリプトを追加、修正、削除できます。

ローカルファイルシステムからの新規スクリプトの追加

Bourne シェルスクリプトのみをアップロードしてください。

ソースファイル  参照...

説明

タイプ pre

システム

Do not run on Systems

Run on Systems

redhat  
sjds

Add >

< Remove

ただちにアップロード 取消し

図 2-16 「Sun JDS-Add a New Script From Local Filesystem」 テーブル

22. 「Edit Custom Script Options」テーブルに戻るには、「Previous」をクリックします。
23. チェックボックスをクリックして、プロファイルに追加するカスタムスクリプトを選択します。

---

**注** - シリアルコンソールを通じてマシンを構築している場合に、ステップ 7 でブートローダーを選択した場合は、この時点で対応する Grub のカスタマイズスクリプトを追加します。

追加しない場合は、ブートログメッセージとインストールメッセージがコンソールに表示されません。

---

24. 「保存」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

## Red Hat プロファイル

---

**注** - ここで説明する手順には、設定パラメータを複数含む UI 画面が多数含まれます。

---

Red Hat プロファイルを追加する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「プロファイル」を選択します。  
「AllStart プロファイル」テーブルが表示されます。
2. 下の「追加」をクリックします。  
「Select System Type」テーブルが表示されます。
3. タイプ `redhat` を選択します。
4. 下の「続行」をクリックします。  
「Add AllStart Profile」テーブルが表示されます (図 2-17 を参照)。
5. 下記のパラメータを設定します。
  - 「プロファイル名」 - それぞれのプロファイルについて、一意の、記述的な名前を入力します。

---

**注** - それぞれのプロファイルについて、一意の、記述的な名前を使用することが重要です。システムはこの名前に基づいてプロファイルを区別します。

---

- 「プロファイルの説明」 - そのプロファイルに関する説明を入力します。
- Default language.
- 「キーボードの種類」

- 「マウスの種類」
- 3 ボタンマウスをエミュレートするかどうかの選択 2 ボタンマウスで、3 ボタンマウスのエミュレーションを有効にする場合、このチェックボックスをクリックします。
- 「タイムゾーン」- プルダウンメニューから、設定対象ホストが設置されているタイムゾーンを選択します。
- 「root パスワード」- このプロファイルを使用するホストの root パスワードを入力し、パスワードを確認します。
- 「インストール後にシステムをリブートする」- ペイロードとプロファイルのインストール後にホストを再起動する場合は、このチェックボックスをクリックします。

図 2-17 「Red Hat-Add AllStart Profile」 テーブル

6. テーブルの下にある「次へ」をクリックします。

「Edit Boot Loader Options」 テーブルが表示されます ( 図 2-18 を参照 )。

7. ブートローダについて、下記のパラメータを設定します。

---

**注** - シリアルコンソールを通じてマシンを構築するときに、ブートローダとして Grub または LILO を選択する場合は、この手順の最後で、対応する Grub または LILO カスタマイズスクリプトを追加する必要があります。この作業は、ステップ 23で行います。

---

- 「ブートローダのインストール」- ブートローダをインストールするときは、このチェックボックスをクリックします。

- 「ブートローダーの選択」プルダウンメニューから、ブートローダーを選択します。  
LILO または GRUB を選択してください。
- カーネルパラメータ
- GRUB ブートローダーを選択した場合
  - GRUB パスワードを入力します。
  - チェックボックスをクリックすると、GRUB パスワードの暗号化が設定されます。
- LILO ブートローダーを選択した場合
  - 1 つ目のチェックボックスをクリックすると、リニアモードの使用が設定されます。
  - 2 つ目のチェックボックスをクリックすると、インストール時に lba32 モードの使用が強制されます。

図 2-18 「Red Hat-Edit Boot Loader Options」 テーブル

8. テーブルの下にある「次へ」をクリックします。  
「Partitions」テーブルが表示されます (図 2-19 を参照)。
9. ラジオボタンをクリックして、3 つのセクションの設定を行います。
  - 「マスターブートレコード」
    - マスターブートレコードをクリアする
    - マスターブートレコードをクリアしない
  - 既存パーティションに対する処理
    - すべての既存パーティションを削除する
    - 既存 Linux パーティションを削除する

- 既存パーティションを維持する
- ディスクラベルに対する処理
  - ディスクラベルを初期化する
  - ディスクラベルを初期化しない

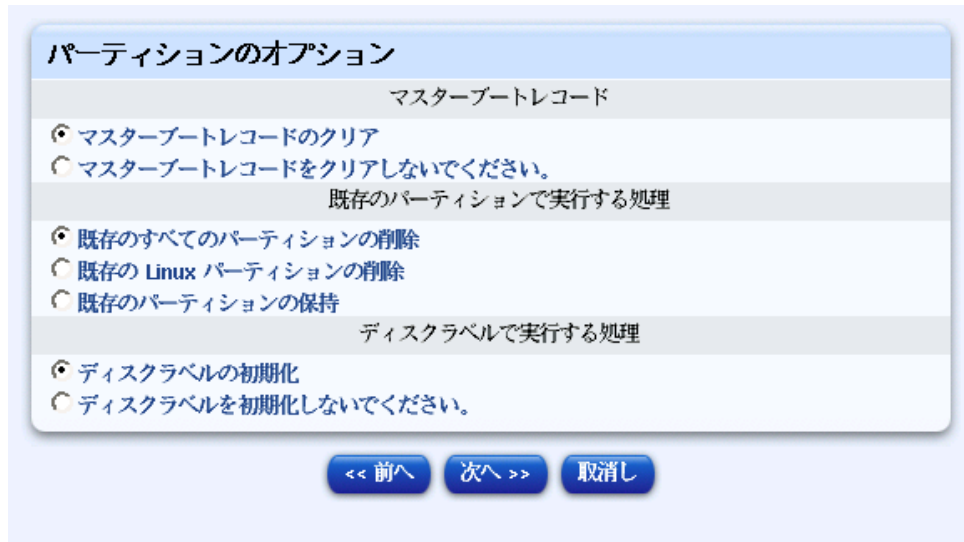


図 2-19 「Red Hat—Partitions」 テーブル

10. テーブルの下にある「次へ」をクリックします。  
「Disk Partition Information」 テーブルが表示されます (図 2-20 を参照)。

## ディスクパーティション情報

11. 別の選択ウィンドウが表示されます。  
選択ウィンドウには、各パーティションについて次の項目が表示されます。
  - デバイス / パーティション番号
  - マウントポイント
  - 種類
  - サイズ (MB)
  - 「Actions」 列
12. 選択ウィンドウでは、パーティションを追加、編集、または削除できます。

---

**注** - このステップは繰り返し行うプロセスです。この選択ウィンドウでは、パーティションを任意に追加、編集、または削除できます。パーティションを設定したら、「次へ」をクリックして認証オプションに移動します。

---

---

**注** - 少なくとも、/root パーティションと 1 つのスワップパーティションを定義する必要があります。

---

**a. 新規パーティションを追加するには、選択ウィンドウの下にある「Add Disk Partition」をクリックします。**

「Partition Options」テーブルが表示されます。図 2-21 に例を示します。下記のパラメータを設定します。

- マウントポイント
- ファイルシステムの種類
- パーティションのサイズ (MB)

プルダウンメニューに新規マウントディレクトリを追加するには、右側の「新規マウントディレクトリの追加」をクリックします。「新規マウントポイントの定義」テーブルが表示されます。新規マウントの名前を入力して、「保存」をクリックします。新規マウントポイントが追加された「パーティションのオプション」テーブルが表示されます。

また、次のような追加オプションも設定できます。

- パーティションを固定サイズに制限する
  - パーティションが、ハードディスクドライブ (HDD) 上のすべての未割り当て領域を使用することを許可する
  - パーティションが最大サイズまで拡張することを許可し、最大サイズ (メガバイト単位) を設定する。
  - 特定のドライブ上にパーティションを作成し、そのドライブを認識する
- 「保存」をクリックして続行します。

**b. パーティションを編集するには、「Actions」列のパーティションの鉛筆アイコンをクリックします。**

「Partition Options」テーブルが表示されます。設定可能なパラメータは、新規パーティションを追加する場合と同じです。ステップ a の手順を参照してください。

**c. パーティションを削除するには、「Actions」列のパーティションの削除アイコンをクリックします。**

選択ウィンドウが更新され、リストからパーティションが削除されます。

---

**注** - このタスクについては「Confirm Deletion」ダイアログがないため、パーティションに間違いがないかどうか確認してから削除してください。

---

**ディスクパーティションの情報**

編集操作または削除操作のためにチェックボックスを選択してください(複数可)。

| デバイス / パーティション番号 | マウントポイント / RAID | タイプ  | サイズ (MB) | 処理                                                |
|------------------|-----------------|------|----------|---------------------------------------------------|
| sda              | swap            | swap | 300      | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> |
| sda              | /home           | ext3 | 200      | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> |
| sda              | /var            | ext3 | 500      | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> |
| sda              | /               | ext3 | 500      | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> |

ディスクパーティションの追加

<< 前へ    次へ >>    取消し

図 2-20 「Red Hat-Sample of a Disk Partition Information」 テーブル

**パーティションのオプション**

マウントポイント: / 新規マウントディレクトリの追加

ファイルシステムのタイプ: ext3

サイズ (MB): 0

追加オプション

☒ 固定サイズ

☐ ディスクの未使用の容量をすべて使用

☐ 最大許容サイズ (MB): 0

特定のドライブにパーティションを作成 (ondisk): sda

保存    取消し

図 2-21 「Red Hat-Partition Options」 テーブル

13. テーブルの下にある「次へ」をクリックします。

「Edit Authentication Information」 テーブルが表示されます ( 図 2-22 を参照 )。

## 認証情報

### 14. 異なる認証タイプに関して、次のようなパラメータが設定できます。

**注** - これらのオプションについては、該当する Red Hat のマニュアルで説明されています。詳細は、<http://www.redhat.com/docs/> を参照してください。

#### a. シェadowパスワードと MD5 チェックサム

- シェadowパスワードオプションは、デフォルトで有効化されています。
- 「Enable MD5」オプションはデフォルトで有効化されています。

#### b. NIS 認証

- NIS の有効化
- NIS ドメインの入力
- NIS サーバ検出のためのブロードキャストの使用
- NIS サーバの入力

#### c. LDAP 認証

- LDAP の有効化
- LDAP サーバの入力
- LDAP ベース名の入力

| 認証情報の編集                  |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| Shadowパスワードの有効化          | Y                        |
| MD5 の有効化                 | Y                        |
| NIS 認証                   |                          |
| NIS の有効化                 | <input type="checkbox"/> |
| NIS ドメイン                 | <input type="text"/>     |
| NIS サーバの検索にブロードキャストを使用する | <input type="checkbox"/> |
| NIS サーバ                  | <input type="text"/>     |
| LDAP 認証                  |                          |
| LDAP の有効化                | <input type="checkbox"/> |
| LDAP サーバ                 | <input type="text"/>     |
| LDAP ベース名                | <input type="text"/>     |

<< 前へ    次へ >>    取消し

図 2-22 「Red Hat-Edit Authentication Information」 テーブル

15. テーブルの下にある「次へ」をクリックします。

「X Config Options」テーブルが表示されます ( 図 2-23 を参照 )。

## **X Window の設定**

16. 下記のパラメータを設定します。

- X Window システムを有効にするには、チェックボックスをクリックします。

---

**注** - X Window システムが有効にされていない場合、このテーブルの以下のパラメータはすべて無効になります。

---

- モニタの色深度と解像度を設定します。
- プルダウンメニューからのデフォルトのデスクトップ、GNOME または KDE のいずれかを選択します。
- チェックボックスをクリックすると、起動時に X Window システムが起動します。
- プルダウンメニューからビデオカードを選択します。
- プルダウンメニューからビデオカードに使用可能な RAM サイズを選択します。
- プルダウンメニューからモニタを選択します。
- あるいは、使用するモニタの水平同期と垂直同期の値を指定することもできます。

このオプションを使うには、チェックボックスをクリックして、「Horizontal Sync」 / 「Vertical Sync」の値をそれぞれのフィールドに入力します。

図 2-23 「Red Hat-X Config Options」 テーブル

17. テーブルの下にある「次へ」をクリックします。

「Edit Custom Script Options」 テーブルが表示されます (図 2-24 を参照)。

## カスタムスクリプトオプション

このテーブルには、プロファイルに追加可能なカスタムスクリプトが多数含まれています。

---

**注** - このテーブルに他のカスタムスクリプトをアップロードする場合は、「Edit Custom Script Options」 テーブルの下にある「保存」をクリックする前にアップロード操作を行う必要があります。

---

カスタムスクリプトのアップロードを行わない場合は、ステップ 23 に進みます。



図 2-24 「Red Hat-Edit Custom Script Options」 テーブル

「Edit Custom Script Options」 テーブルにカスタムスクリプトをアップロードする手順は、次のとおりです。

18. 「Upload Scripts」 をクリックします。

「Upload User-defined Custom Scripts」 テーブルが表示されます。

このテーブルに表示されるカスタムスクリプトは編集または削除できます。

19. 「追加」 をクリックします。

「Add a New Script From Local Filesystem」 テーブルが表示されます ( 図 2-25 を参照 )。

20. 次の情報を入力します。

- ボタンをクリックしてファイルを指定する
- スクリプトに関する説明を入力する
- スクリプトの種類を選択する
  - 「Pre」 - スクリプトをインストールの前に実行します ( ドライバなど )。
  - 「Post」 - スクリプトをインストールの後に実行します。
  - 「Postnochroot」 - インストールの後に動作しますが、root としての実行を必要としません。
- スクリプトを実行するシステムの種類を選択します。「追加」または「削除」ボタンを使用して、スクロールウィンドウ間でスクリプトを移動します。

21. 「ただちにアップロード」 をクリックします。

「Task Progress」 ダイアログが表示されます。

アップロードが完了すると、カスタムスクリプトが「Upload User-defined Custom Scripts」 テーブルに表示されます。

このテーブルから、他のスクリプトを追加、編集、削除できます。

図 2-25 「Red Hat-Add a New Script From Local Filesystem」 テーブル

22. 「Edit Custom Script Options」 テーブルに戻るには、「Previous」 をクリックします。
23. チェックボックスをクリックして、プロファイルに追加するカスタムスクリプトを選択します。

---

**注** - シリアルコンソールを通じてマシンを構築している場合に、ステップ 7 でブートローダーに Grub または LILO を選択した場合は、この時点で Grub または LILO のカスタマイズスクリプトを追加します。

追加しない場合は、ブートログメッセージとインストールメッセージがコンソールに表示されません。

---

24. 「保存」 をクリックします。
- 「Task Progress」 ダイアログが表示されます。

## プロフィールの表示

ペイロードについての情報を表示する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「プロフィール」を選択します。  
「AllStart プロファイル」テーブルが表示されます。
2. プロファイルをクリックして選択します。
3. 「表示」をクリックします。  
「Detailed Profile View」テーブルが表示され、プロフィールに関するすべてのパラメータが提示されます。
4. 「完了」をクリックすると、「AllStart ペイロード」テーブルに戻ります。

## プロフィールの修正

プロフィールを変更する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「プロフィール」を選択します。  
「AllStart プロファイル」テーブルが表示されます。
2. プロファイルをクリックして選択します。
3. 右下の「Modify」をクリックします。  
「Modify AllStart Profiles」テーブルが表示されます。以降の手順は、プロフィールの追加に使用する画面と同じ画面での操作になります。  
Sun JDS プロファイルの詳細については、25 ページの「Sun Java Desktop System プロファイル」を参照してください。  
Red Hat プロファイルの詳細については、37 ページの「Red Hat プロファイル」を参照してください。

## プロファイルの削除

「AllStart プロファイル」テーブルからプロファイルを削除する手順は、次のとおりです。

---

**注** - プロファイルがクライアントを参照している場合には、そのプロファイルを削除できません。その場合は、まずそのクライアントを変更または削除する必要があります。

---

1. 「AllStart」 > 「プロファイル」を選択します。  
「AllStart プロファイル」テーブルが表示されます。
2. プロファイルをクリックして選択します。上の「すべてを選択」をクリックすれば、リスト内のすべてのプロファイルを選択できます。
3. 右下の「削除」をクリックします。
  - プロファイルがあるクライアントを参照している場合、そのペイロードは削除できません。
  - プロファイルがクライアントを参照していない場合は、ダイアログが表示され、削除の確認を求められます。
4. 「削除」をクリックします。  
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

# クライアント

クライアントを、追加、表示、変更、または削除できます。また、クライアントを有効化または無効化できます。

図 2-26 に、「AllStart クライアント」テーブルの例を示します。「Enabled」、「Client MAC address」、「Profile Name」、「Payload Name」、「Build Phase」、「Built Time」の各列があります。

AllStart クライアント

すべてを選択

すべての選択を解除

| 有効                         | クライアントの MAC  | プロファイル名   | ペイロード名     | ビルドフェーズ | ビルド時間 |
|----------------------------|--------------|-----------|------------|---------|-------|
| <input type="checkbox"/> Y | 00E018ED64F1 | redhat7.3 | seventhree | None    | None  |
| <input type="checkbox"/> Y | 00E018ED64F2 | sjds      | Desktop    | None    | None  |

追加

有効化

無効化

表示

変更

削除

ビルド状態

図 2-26 「AllStart Clients」テーブルの例

## クライアントの追加

新規クライアントは、手動で追加、新規 AutoDiscovery クライアントを追加、Sun Control Station 内にすでに存在する管理対象ホストの一覧から新規クライアントを選択、または XML フォーマットファイル内のクライアントの一覧からインポートできます。

クライアントをすぐに使用したいときは、必ずそれぞれのクライアントを有効にしてください。また、DHCP 設定を有効にする必要があります。詳細は、65 ページの「DCHP 設定の修正」を参照してください。

**注** - クライアントは、「AllStart クライアント」テーブルに追加してから有効にする必要があります。

クライアントが有効にされていないと、AllStart モジュールはそのクライアントの MAC アドレスと IP アドレスに対応するサーバがネットブートしてもペイロードを提供しません。

---

**注** - AllStart の初期設定で表示する OS ディストリビューションを 1 つだけ選択した場合は、AllStart の手順で「Select System Type」選択ウィンドウが表示されません。手順が直接開始されます。

詳細は、71 ページの「Advanced」を参照してください。

---

## 新規クライアントの追加

新規クライアントを追加する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「クライアント」を選択します。  
「AllStart クライアント」テーブルが表示されます。
2. 下の「追加」をクリックします。  
「Select System Type」テーブルが表示されます。
3. タイプ `sjds` または `redhat` を選択します。
4. 下の「続行」をクリックします。  
「Create AllStart Client」テーブルが表示されます ( 図 2-27 を参照 )。
5. 下記のパラメータを設定します。

---

**注** - ペイロードとプロファイルのインストールに使用されるネットワークインタフェースカード (NIC) の MAC アドレスを入力する必要があります。

---

- 「MAC アドレス」 - 新規クライアントの MAC アドレスを入力します。
  - インストールのタイプ - インストール手段を選択します。NFS または HTTP から選択します。
  - シリアルコンソール - 使用するコンソールポートを選択します。
  - シリアルコンソールのボーレート - コンソールのボーレートを選択します。
  - 「ペイロード」 - インストールするペイロードの名前を選択します。
  - 「プロファイル」 - インストールするプロファイルの名前を選択します。
6. テーブルの下にある「次へ」をクリックします。  
「Configure Install Boot Information」テーブルが表示されます ( 図 2-28 を参照 )。  
これらのオプションにより、インストール中にさまざまなブート構成が可能になります。

7. 下記のパラメータを設定します。

- 「ブートのタイプ」
- 「カーネルパラメータ」

---

**注** - Sun JDS クライアントを作成している場合、次のカーネルパラメータを指定する必要があります。

Sun™ LX50 サーバの場合、引数 `acpi=OFF` を追加します。(これは Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) 機能をオフにします。)

ホワイト-ボックス サーバの場合はすべて、引数 `apm=OFF` を追加します。(これは Advanced Power Management (APM) 機能をオフにします。)

- 
- インストールネットワークデバイスネットワークデバイスを選択します。eth0 または eth1 から選択してください。

---

**注** - Sun Fire™ V60x サーバまたは V65x サーバでは、インストールは 2 つのビルトイン NIC のどちらかで行われる必要があります。

- 
- 「IP アドレスのインストール」- 新規クライアントの IP アドレスを入力します。
  - ネットマスク
  - ゲートウェイ
  - ホスト名
  - ネームサーバ

図 2-27 「Create AllStart Client」 テーブル

**インストールのブート情報を構成します。**

インストール中にさまざまなブート構成を可能にするために、次のオプションを利用できます。

|                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| ブートのタイプ           | PXE Boot ▼           |
| カーネルパラメータ         | <input type="text"/> |
| ネットワークデバイスのインストール | eth0 ▼               |
| IP アドレスのインストール    | <input type="text"/> |
| ネットマスク            | <input type="text"/> |
| ゲートウェイ            | <input type="text"/> |
| ホスト名              | <input type="text"/> |
| ネームサーバー           | <input type="text"/> |

<< 前へ    次へ >>    取消し

図 2-28 「Configure Install Boot Information」 テーブル

8. テーブルの下にある「次へ」をクリックします。

「Network Interfaces」 テーブルが表示されます ( 図 2-29 を参照 )。

このテーブルでは、クライアントの NIC に関する情報を設定します。

9. 下の「ネットワークインタフェースの追加」をクリックします。

「Enter Network Interface Information」 テーブルが表示されます ( 図 2-30 を参照 )。

10. 下記のパラメータを設定します。

- ネットワークデバイス
- ネットワークタイプ
  - 「Static」を選択した場合は、下記のフィールドに入力する必要があります。
  - 「DHCP」を選択した場合は、テーブルの下の「保存」をクリックします。
  - 「None」を選択した場合は、テーブルの下の「保存」をクリックします。
- IP アドレス
- ネットマスク
- ゲートウェイ
- ホスト名
- ネームサーバ

11. テーブルの下にある「保存」をクリックします。

「Network Interfaces」 テーブルが更新され、新規デバイスが追加されます。

12. 次に、他のデバイスの追加、または既存のデバイスに関するその他のオペレーションを実行することができます。

- 他のデバイスを追加するには、下の「Add Network Interface」をクリックします。「Enter Network Information」テーブルが表示されます。
- 既存のデバイスの設定を編集するには、そのデバイスの横の「Actions」列にある鉛筆アイコンをクリックします。「Enter Network Information」テーブルが表示されます。
- 既存のデバイスをリストから削除するには、そのデバイスの横の「Actions」列にある削除アイコンをクリックします。テーブルが更新され、デバイスが削除されます。

---

**注** - このタスクについては「Confirm Deletion」ダイアログがないため、デバイスに間違いがないかどうか確認してから削除してください。

---

13. ネットワークインタフェースの設定が完了したら、テーブルの下「保存」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

ネットワークインタフェース

「追加」をクリックして、インストール後に構成するネットワークインタフェースを入力します。適切なアイコンをクリックして、完全な情報を編集、削除、または表示します。

| デバイス | 静的 / IP | IP          | ネットマスク        | ゲートウェイ     | ホスト名        | ネームサーバー      | 処理                                                                                                                                                                          |
|------|---------|-------------|---------------|------------|-------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| eth7 | static  | 10.6.47.63  | 255.255.255.0 | 10.6.47.1  | brendamula  | 10.6.47.254  |       |
| eth9 | static  | 10.6.73.28  | 255.255.255.0 | 10.6.73.1  | jeffbilicki | 10.6.73.254  |     |
| eth8 | static  | 10.9.47.21  | 255.255.255.0 | 10.9.47.1  | natebilicki | 10.9.47.254  |   |
| eth6 | static  | 10.6.147.53 | 255.255.255.0 | 10.6.147.1 | supriyamula | 10.6.147.254 |   |
| eth0 | static  |             |               |            |             |              |   |

ネットワークインタフェースの追加

<< 前へ 保存 取消し

図 2-29 「Network Interfaces」テーブルの例

図 2-30 「Enter Network Interface Information」 テーブル

## 新規 AutoDiscovery クライアントの追加

---

**注** - このオプションは、68 ページの「AutoDiscovery 機能」と関連して機能します。この手順は、AutoDiscovery クライアントで使用する IP アドレスの範囲の指定に使用します。

---

AutoDiscovery 機能により、サーバが DHCP サーバから IP アドレスを取得して、PXE ブートサーバからその IP アドレスに対するデフォルトのペイロードを取得できます。この機能は、特にクライアントの MAC アドレスが不明な場合に役立ちます。

AutoDiscovery 機能の設定方法の詳細は、68 ページの「AutoDiscovery 機能」を参照してください。

新規 AutoDiscovery クライアントを追加する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「クライアント」を選択します。  
「AllStart クライアント」テーブルが表示されます。
2. 下の「追加」をクリックします。  
「Select System Type」テーブルが表示されます。
3. タイプ `sjds` または `redhat` を選択します。
4. 下の「続行」をクリックします。  
「Create AllStart Client」テーブルが表示されます。
5. テーブルの上にあるプルダウンメニューから、「Add AutoDiscovery Client」を選択します。  
「AutoDiscovery Client」テーブルが表示されます (図 2-31 を参照)。
6. 下記のパラメータを設定します。
  - 「クライアント名」 (クライアント名には自動的に接頭辞 `default-` が付けられます)
  - 「サブネット」 - クライアントが常駐するサブネットを選択します。
  - インストールのタイプ - インストール手段を選択します。NFS または HTTP から選択します。
  - シリアルコンソール - 使用するコンソールポートを選択します。
  - シリアルコンソールのボーレート - コンソールのボーレートを選択します。
  - インストールネットワークデバイスネットワークデバイスを選択します。eth0 または eth1 から選択してください。

---

**注** - Sun Fire™ V60x サーバまたは V65x サーバでは、インストールは 2 つのビルトイン NIC のどちらかで行われる必要があります。

---

- 「カーネルパラメータ」
  - 「ペイロード」 - インストールするペイロードの名前を選択します。
  - 「プロファイル」 - インストールするプロファイルの名前を選択します。
7. テーブルの下にある「保存」をクリックします。  
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

クライアントの自動検出の追加 ▼

### クライアントの自動検出

次の値は、インストールにのみ使用されます。

|                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| クライアント名           | <input type="text"/> |
| サブネット             | 192.168.2.0 ▼        |
| インストールのタイプ        | http ▼               |
| シリアルコンソール         | None ▼               |
| シリアルコンソールのボーレート   | 9600 ▼               |
| ネットワークデバイスのインストール | eth0 ▼               |
| カーネルパラメータ         | <input type="text"/> |
| ペイロード             | seventhree ▼         |
| プロファイル            | redhat ▼             |

保存 取消し

図 2-31 「AutoDiscovery Client」 テーブル

## 管理対象ホストのクライアントとしての追加

Sun Control Station にすでにホストをインポートしている場合、AllStart クライアントとして追加する管理対象ホストを選択できます。

管理対象ホストをクライアントとして追加する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「クライアント」 を選択します。  
「AllStart クライアント」 テーブルが表示されます。
2. 下の「追加」 をクリックします。  
「Select System Type」 テーブルが表示されます。
3. タイプ `sjds` または `redhat` を選択します。
4. 下の「続行」 をクリックします。  
「Create AllStart Client」 テーブルが表示されます。
5. テーブルの上にあるプルダウンメニューから、「Add a Managed Host as a Client」を選択します。  
「Add AllStart Client from Managed Host」 テーブルが表示されます。

6. 管理対象ホストをクリックして選択します。

追加できるのは、一度に 1 つの管理対象ホストだけです。

7. 右下の「追加」をクリックします。

「Create AllStart Client」テーブルが表示されます。

8. 下記のパラメータを設定します。

---

**注** - 管理対象ホストはすでにネットワークに接続され、IP アドレスを割り当てられている必要があります。また、MAC アドレスフィールドにも、すでに値が設定されているはずです。これら 2 つのパラメータは変更できません。

---

- インストールのタイプ - インストール手段を選択します。NFS または HTTP から選択します。
- シリアルコンソール - 使用するコンソールポートを選択します。
- シリアルコンソールのボーレート - コンソールのボーレートを選択します。
- 「ペイロード」 - インストールするペイロードの名前を選択します。
- 「プロファイル」 - インストールするプロファイルの名前を選択します。

9. テーブルの下にある「保存」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

## クライアントリストのインポート

XML 形式のファイルにクライアントのリストを記述してインポートすることもできます。正しい形式については、59 ページの「クライアントリストの XML 書式」を参照してください。

クライアントリストのファイルをインポートする手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「クライアント」を選択します。

「AllStart クライアント」テーブルが表示されます。

2. 下の「追加」をクリックします。

「Select System Type」テーブルが表示されます。

3. タイプ `sjds` または `redhat` を選択します。

4. 下の「続行」をクリックします。

「Create AllStart Client」テーブルが表示されます。

5. テーブルの上にあるプルダウンメニューから、「Add Clients from a File」を選択します。

「Local Client Definitions From A File」テーブルが表示されます。

6. XML ファイルへのパスとファイル名を入力するか、ボタンをクリックしてファイルを指定します。
7. テーブルの下にある「Create Clients」をクリックします。  
「Task Progress」ダイアログが表示されます。

## クライアントリストの XML 書式

ここでは、クライアントのリストを含む XML 形式のファイルの書式について、例を挙げて説明します。

ファイル名の拡張子は、.xml です。

以下のファイル例には、2つのクライアントに関する情報が含まれています。1つ目のクライアントには2つのネットワークデバイスがあり、それぞれ DHCP と静的 IP アドレスで識別されます。2つ目のクライアントには1つのネットワークデバイスがあり、静的 IP アドレスで識別されます。

## ファイル例

```
<clients>
  <client>
    <mac value = "00:03:47:D5:74:7A"/>
    <install_type value = "http"/>
    <console value = "none"/>
    <console_baud value = "9600"/>
    <payload value = "sjds"/>
    <profile value = "sjds"/>
    <network>
      <device value = "eth0"/>
      <type value = "dhcp"/>
    </network>
    <network>
      <device value = "eth1"/>
      <bootproto value = "static"/>
      <ip value = "192.168.0.3"/>
      <netmask value = "255.255.255.0"/>
      <gateway value = "192.168.0.1"/>
      <hostname value = "bmula3.sfbay.sun.com"/>
      <nameserver value = "192.168.0.1"/>
    </network>
    <boot>
      <boottype value = "pxe"/>
      <device value = "eth0"/>
      <ip value = "192.168.0.3"/>
      <netmask value = "255.255.255.0"/>
      <kernel_params value = "acpi=off"/>
      <hostname value = "bmula3.sfbay.sun.com"/>
      <gateway value = "192.168.0.1"/>
    </boot>
  </client>
  <client>
    <mac value = "00:10:4B:0F:93:75"/>
```

```

<install_type value = "http"/>
<console value = "none"/>
<console_baud value = "9600"/>
<payload value = "sjds"/>
<profile value = "sjds"/>
<network>
  <device value = "eth0"/>
  <bootproto value = "static"/>
  <ip value = "10.1.10.60"/>
  <netmask value = "255.255.255.0"/>
  <gateway value = "10.1.10.1"/>
  <hostname value = "bmula6.sfbay.sun.com"/>
  <nameserver value = "10.1.10.1"/>
</network>
<boot>
  <boottype value = "pxe"/>
  <device value = "eth0"/>
  <ip value = "10.1.10.60"/>
  <netmask value = "255.255.255.0"/>
  <kernel_params value = "acpi=off"/>
  <hostname value = "test.central.sun.com"/>
  <gateway value = "10.1.10.1"/>
</boot>
</client>
</clients>

```

## クライアントの有効化

「AllStart クライアント」テーブルの左端の列は「Enabled」です。そのクライアントが有効化されていれば「Y」が、有効化されていなければ「N」が表示されます。

有効化されていないクライアントを有効にする手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「クライアント」を選択します。  
「AllStart クライアント」テーブルが表示されます。
2. クライアントをクリックして選択します。上の「すべてを選択」をクリックすれば、リスト内のすべてのクライアントを選択できます。
3. 下の「Enable」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

「AllStart Clients」テーブル上で、選択したクライアントの「Enabled」列に「Y」が表示されます。

## クライアントの無効化

「AllStart クライアント」テーブルの左端の列は「Enabled」です。そのクライアントが有効化されていれば「Y」が、有効化されていなければ「N」が表示されます。

有効化されているクライアントを無効にする手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「クライアント」を選択します。

「AllStart クライアント」テーブルが表示されます。

2. クライアントをクリックして選択します。上の「すべてを選択」をクリックすれば、リスト内のすべてのクライアントを選択できます。

3. 下の「Disable」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

「AllStart Clients」テーブル上で、選択したクライアントの「Enabled」列に「N」が表示されます。

## クライアントの表示

クライアントに関する情報を表示する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「クライアント」を選択します。

「AllStart クライアント」テーブルが表示されます。

2. クライアントをクリックして選択します。

3. 右下の「表示」をクリックします。

「View AllStart Client」テーブルに、次の情報が表示されます。

- MAC アドレス
- IP アドレス
- クライアントの有効化 (Y/N)
- インストールネットワークデバイス
- シリアルコンソール
- シリアルコンソールのボーレート
- ブートローダ
- カーネルパラメータ
- インストールのタイプ
- ペイロードの名前
- プロファイルの名前
- デバイス情報

4. 「完了」をクリックすると、「AllStart クライアント」テーブルに戻ります。

## クライアントの修正

クライアントを修正する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「クライアント」を選択します。

「AllStart クライアント」テーブルが表示されます。

2. クライアントをクリックして選択します。

3. 右下の「Modify」をクリックします。

追加したクライアントのタイプに応じたテーブルが表示され、修正できます。

たとえば、AutoDiscovery クライアントを修正する場合は、「AutoDiscovery Client」テーブルが表示されます。単一の新規クライアントとして追加されたクライアントを修正する場合は、「Modify AllStart Client」テーブルが表示されます。

以降の手順は、クライアントの追加に使用する画面と同じ画面での操作になります。表示される画面については、修正するクライアントのタイプごとのクライアント追加手順を参照してください。

50 ページの「クライアントの追加」を参照してください。

## クライアントの削除

クライアントを削除する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「クライアント」を選択します。

「AllStart クライアント」テーブルが表示されます。

2. クライアントをクリックして選択します。上の「すべてを選択」をクリックすれば、リスト内のすべてのクライアントを選択できます。

3. 右下の「削除」をクリックします。

---

**注** - 有効化されているクライアントは、自動的に無効化されます。

---

ダイアログが表示され、削除の実行を確認されます。

4. 「削除」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

「AllStart クライアント」テーブルから、クライアントが削除されます。

## クライアントの構築

Control Station の UI でクライアントを作成し、それを有効にすると、クライアント上でペイロードおよびプロファイルをインストールすることができるようになります。

---

**注** - また、構築動作に対しては、「AllStart Clients」テーブル内でクライアントエントリを有効化する必要があります。

---

クライアントを構築する手順は、次のとおりです。

1. クライアントを構成してネットワークから起動します。
2. クライアントを再起動します。

クライアントは Sun Control Station からペイロードとプロファイルを受け取ります。

---

**注** - インストールは、Sun Control Station からクライアントへの、アクティブな「push」操作ではありません。クライアントは、Control Station から、ペイロードとプロファイルを「pull」しなければなりません。つまり、「AllStart Clients」テーブル内のクライアントエントリにしたがって、クライアントはペイロードとプロファイルを受け取ることになります。

---

## クライアントのビルドステータスの表示

AllStart が現在ビルドされているクライアントのステータスを表示できます。

クライアントのビルドステータスを表示する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「クライアント」を選択します。  
「AllStart クライアント」テーブルが表示されます。
2. クライアントをクリックして選択します。上の「すべてを選択」をクリックすれば、リスト内のすべてのクライアントを選択できます。
3. 右下の「ビルドステータス」をクリックします。  
「View AllStart Client」テーブルが表示されます。このテーブルには、クライアントについて、ペイロードの名前、ビルドの現在のフェーズ、エラーが発生した場合はその説明、ビルドに要した時間などが表示されます。
4. 「完了」をクリックすると、「AllStart クライアント」テーブルに戻ります。

---

# サービス

次のサービスに対する設定を表示できます。

- DHCP
- NFS
- HTTP

NFS と HTTP は、常に有効化されていなくてはなりません。これら 2 つのサービスは無効化できません。

DHCP 設定は修正可能です。

## DHCP 情報の表示

現在の DHCP 情報を表示する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「サービス」を選択します。  
「Current Service Settings」テーブルが表示されます (図 2-32 を参照)。
2. テーブルの下にある「View DHCP Info」をクリックします。  
「Additional DHCP Settings」テーブルが表示されます。それぞれのエントリについて、ネットワーク、ネットワークマスク、IP アドレスの範囲がテーブルに表示されます。
3. エントリをクリックして選択します。
4. 右下の「詳細」をクリックします。  
「Detailed DHCP Settings」テーブルが表示されます。このテーブルには、次の情報が表示されます。
  - ネットワーク
  - ネットマスク
  - IP 範囲
  - ルータ
  - DNS サーバ
  - DNS サーバ 2
  - DNS サーバ 3
  - ドメイン
  - ドメイン 2
5. 「完了」をクリックすると、「Additional DHCP Settings」テーブルに戻ります。
6. 「前へ」をクリックすると、「Current Service Settings」テーブルに戻ります。

| 現在のサービス設定 |   |
|-----------|---|
| DHCP が有効  | N |
| NFS が有効   | Y |
| HTTP が有効  | Y |

[DHCP 情報の表示](#)
[変更](#)

図 2-32 「Current Service Settings」テーブル

## DCHP 設定の修正

DHCP 設定を修正する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「サービス」 を選択します。  
「Current Service Settings」 テーブルが表示されます。
2. テーブルの下にある「Modify」 をクリックします。  
「Modify Service Settings」 テーブルが表示されます。

---

**注** - NFS と HTTP は無効化できません。

---

3. 下記のパラメータを設定できます。
  - 「DHCP Enabled」 - このチェックボックスをクリックすると、DHCP サービスを有効化または無効化できます。
  - 「DHCP Interface」 - プルダウンメニューから、eth0 または eth1 を選択します。
4. DHCP 情報を修正するには、テーブルの下「Modify DHCP Info」 をクリックします。  
「Modify DHCP Settings」 選択ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、新規 DHCP 情報の追加、既存の DHCP 情報の修正、または DHCP 情報の削除ができます。

---

**注** - DHCP 情報に対する変更を行うときは、必ず最後に「保存」 をクリックしてください。保存しないと、変更は有効になりません。

---

## 新規 DHCP の情報を追加する

---

**注** - 「Modify DHCP Settings」ページで、アドレス範囲について IP アドレスの下端と上端を選択する場合、

- a) Sun Control Station サーバの IP アドレスは IP アドレスの範囲内にできません。
  - b) ネットワークのブロードキャストアドレス (192.168.0.255 など) はそのアドレスの範囲内にできません。
  - c) アドレス範囲の下端と上端の両方に同じ IP アドレスを入力することはできません。
  - d) あるバージョンの DHCP では、リストされているアドレス範囲の最初の IP アドレスも最後の IP アドレスも使用しません。そこで、IP アドレスを 1 つだけ含む有効な範囲の例は、次のようになります。  
10.1.10.100 - 10.1.10.102.
- 

### 5. 右下の「追加」をクリックします。

「Add New DHCP Settings」テーブルが表示されます ( 図 2-33 を参照 )。次の情報を入力します。

- ネットワーク
- ネットマスク
- IP 範囲 ( 最初のフィールドには下位 IP アドレスを、2 つ目のフィールドには上位 IP アドレスを入力します。 )
- ルータ
- DNS サーバ
- DNS サーバ 2
- DNS サーバ 3
- ドメイン
- ドメイン 2

### 6. 「保存」をクリックします。

「Modify DHCP Settings」選択ウィンドウが表示され、新規 DHCP 情報に関するエントリが提示されます。

| 新規 DHCP 設定の追加 |                      |
|---------------|----------------------|
| ネットワーク        | <input type="text"/> |
| ネットマスク        | <input type="text"/> |
| IP 範囲         | <input type="text"/> |
|               | <input type="text"/> |
| ルーター          | <input type="text"/> |
| DNS サーバー      | <input type="text"/> |
| DNS サーバー 2    | <input type="text"/> |
| DNS サーバー 3    | <input type="text"/> |
| ドメイン          | <input type="text"/> |
| ドメイン 2        | <input type="text"/> |

保存 取消し

図 2-33 「Add New DHCP Settings」 テーブル

## DHCP 情報を修正する

7. テーブル内でエントリをクリックして選択します。
8. 右下の「編集」をクリックします。

---

**注** - 66 ページの「新規 DHCP の情報を追加する」の注を参照してください。

---

「Modify DHCP Settings」テーブルが表示されます。ネットワークとネットマスクに関する情報は、すでに設定されています。

次の情報を編集します。

- IP 範囲 (最初のフィールドには下位 IP アドレスを、2 つ目のフィールドには上位 IP アドレスを入力します。)
- ルーター
- DNS サーバ
- DNS サーバ 2
- DNS サーバ 3
- ドメイン
- ドメイン 2

9. 「保存」をクリックします。

「Modify DHCP Settings」選択ウィンドウが表示されます。

### **DHCP 情報を削除する**

10. テーブル内でエントリをクリックして選択します。

11. 右下の「削除」をクリックします。

ダイアログが表示され、削除の実行を確認されます。

12. 「削除」をクリックします。

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

「Modify DHCP Settings」選択ウィンドウから、DHCP 情報のエントリが削除されます。

13. 「前へ」をクリックすると、「Modify Service Settings」テーブルに戻ります。

14. 変更内容を有効にするには、テーブルの下の「保存」をクリックします。

---

**注** - この段階で「保存」をクリックしないと、DHCP 情報に対する変更が保存されず、有効になりません。

---

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

## **AutoDiscovery 機能**

---

**注** - この機能は、55 ページの「新規 AutoDiscovery クライアントの追加」と関連して機能します。この手順は、AutoDiscovery クライアントの作成に使用します。

---

AllStart コントロールモジュールの AutoDiscovery 機能を使用すると、サーバは Sun Control Station から DHCP アドレスを取得し、その DHCP アドレスに関連するデフォルトのペイロードとプロファイルを PXE ブートサーバから取得できます。この機能は、特にクライアントの MAC アドレスが不明な場合に役立ちます。

まず、DHCP テーブルで IP アドレスの範囲を指定します。次に AutoDiscovery クライアント作成して、そのクライアントを有効化します。最後に、ホストマシンをネットブートすると、そのホストは AllStart モジュールからネットワーク情報、ペイロード、プロファイルを取得します。

## クライアントの AutoDiscovery 向け設定

---

**注** - ここに記載する手順では、DHCP サーバがすでに設定され、DHCP サービスが「AllStart」>「サービス」で有効されていることを前提とします。

設定と有効化が完了していない場合は、64 ページの「サービス」を参照してください。

---

AutoDiscovery 向けにクライアントを設定する手順は、次のとおりです。

### IP アドレスの範囲を指定する

1. 「AllStart」>「サービス」を選択します。  
「Current Service Settings」テーブルが表示されます。
2. テーブルの下にある「Modify」をクリックします。  
「Modify Service Settings」テーブルが表示されます。
3. 「DHCP Enabled」チェックボックスをクリックします。
4. プルダウンメニューから「DHCP Interface」を選択します。  
eth0 または eth1 から選択してください。
5. テーブルの下にある「Modify DHCP Info」をクリックします。  
「Modify DHCP Settings」選択ウィンドウが表示されます。

---

**注** - DHCP 情報に対する変更を行うときは、必ず最後に「保存」をクリックしてください。保存しないと、変更は有効になりません。

---

6. テーブル内でエントリをクリックして選択します。
7. 右下の「編集」をクリックします。  
「Modify DHCP Settings」テーブルが表示されます。ネットワークとネットマスクに関する情報は、すでに設定されています。
8. AutoDiscovery に使用する IP アドレスの範囲を入力します。  
最初のフィールドには、その範囲の下位 IP アドレスを、2 つ目のフィールドには、その範囲の上位 IP アドレスを入力します。

---

**注** - このテーブルでは、その他のフィールドに入力する必要はありません。

---

9. 「保存」をクリックします。

「Modify DHCP Settings」選択ウィンドウが表示されます。

10. 「前へ」をクリックすると、「Modify Service Settings」テーブルに戻ります。

11. 変更内容を有効にするには、テーブルの下の「保存」をクリックします。

---

**注** - この段階で「保存」をクリックしないと、DHCP 情報に対する変更が保存されず、有効になりません。

---

「Task Progress」ダイアログが表示されます。

### **AutoDiscovery クライアントを作成する**

12. ここで、クライアントを作成します。

AutoDiscovery クライアントは複数作成できます。

AutoDiscovery クライアントを作成すると、クライアント名に自動的に接頭辞 default- が付けられます。

AutoDiscovery クライアントを作成する方法については、55 ページの「新規 AutoDiscovery クライアントの追加」を参照してください。

### **AutoDiscovery クライアントを有効化する**

13. クライアントを作成したら、次にクライアントを有効化します。

クライアントを有効化する方法については、60 ページの「クライアントの有効化」を参照してください。

### **ホストマシンをネットブートする**

14. ネットワーク上でホストマシンをネットブートします。

ホストマシンは、作成した AutoDiscovery クライアントを通じて、ネットワーク情報とペイロードを入手します。

---

# Advanced

「Advanced」サブメニュー項目では、次のことができます。

- Sun Java Desktop System (JDS) ディストリビューションソフトウェアのインストールで使用する登録情報を入力する。
- AllStart の初期設定を選択する。

## Sun JDS ソフトウェアを登録する

Sun JDS ソフトウェアを登録する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Advanced」を選択します。  
「Registration Information」テーブルが表示されます。
2. このテーブルのフィールドに値を指定します。
3. 「保存」をクリックします。  
「Registration Information」テーブルが更新され、情報が正常に保存されたことを示します。

## AllStart 初期設定の選択

この画面では、対象とする OS ディストリビューションだけが表示されるように、AllStart 画面をカスタマイズできます。

---

**注** - 表示する OS ディストリビューションを 1 つだけ選択した場合は、AllStart の手順で「Select System Type」選択ウィンドウが表示されません。手順が直接開始されます。

---

AllStart の初期設定を選択する手順は、次のとおりです。

1. 「AllStart」 > 「Advanced」を選択します。  
「Registration Information」テーブルが表示されます。
2. テーブルの上にあるプルダウンメニューから、「Preference Selection」を選択します。  
「AllStart Preferences」テーブルが表示されます (図 2-34 を参照)。
3. AllStart 画面に表示する OS ディストリビューションをクリックして有効にします。

4. 「保存」をクリックします。

「AllStart Preferences」テーブルが更新され、情報が正常に保存されたことを示します。

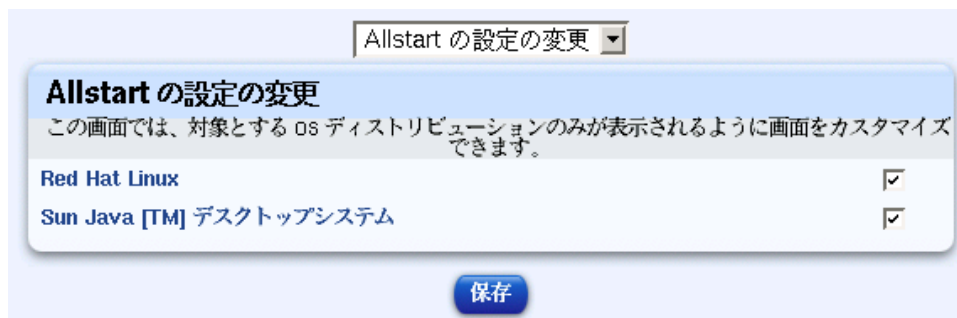


図 2-34 「AllStart Preferences」テーブル

## 第3章

---

# カスタマイズされたカーネルとトラブルシューティングについて

---

この章では、ディストリビューション内でカスタマイズされたカーネルを使用する方法について説明します。

また、起動時またはインストール時に遭遇した問題のトラブルシューティングを行うときに確認すべき事項についても説明します。

---

# カスタマイズされたカーネルの使用

ディストリビューションで、カスタマイズされたカーネルをアップロードできます。

---

**注** - Sun Fire™ V60x サーバまたは Sun Fire V65x サーバ上でカスタマイズされたカーネルを使用するには、最新の SCSI ドライバと Ethernet ドライバが必要です。

75 ページの「Sun Fire V60x サーバおよび Sun Fire V65x サーバに必要なデバイスドライバ」を参照してください。

---

ペイロード、プロファイル、またはクライアントを作成する方法の詳細は、第 2 章「AllStart の機能」の該当する手順を参照してください。

カスタマイズされたカーネルを使用する手順は、次のとおりです。

1. **Sun Control Station UI の「Upload Distribution...」テーブルで、ISO ファイルまたは CD-ROM からディストリビューションをアップロードします。**

詳細については、13 ページの「ディストリビューションの追加」に記載されている手順を参照してください。

2. **Control Station にカスタマイズされたカーネルをダウンロードします。**

カスタマイズされたカーネルは、それぞれ専用のディレクトリに保管されている必要があります。

3. **Control Station 上で、新しいディレクトリを作成します。たとえば、次のコマンドを実行します。**

```
mkdir /tmp/update  
cd /tmp/update
```

---

**注** - このディレクトリの名前は自由に設定できます。ただし、ディレクトリにカーネル以外のファイルが含まれないようにしてください。

---

4. **作成したディレクトリに、カスタマイズされたカーネルをコピーします（たとえば、/tmp/update など）。**

---

**注** - LOM (Lights Out Management) モジュールを使用している場合は、カーネルソース RPM が含まれるようにしてください。

---

```
/usr/mgmt/sbin/as_distro_update.pl -n "NAME" -d /tmp/update
```

ここで、NAME は作成したディストリビューションの名前です。

```
/usr/lib/anaconda-runtime/genhdlist /scs/data/allstart/<distro_num>/  
    ここで、<distro_num> はそのディストリビューションの番号です。distro_num を  
    取得するには、次のコマンドを実行します。  
/scs/sbin/as_distro.pl
```

5. ペイロードを作成します。
6. プロファイルを作成します。
7. クライアントを作成します。
8. クライアントを有効にします。
9. クライアントをネットブートします。

## Sun Fire V60x サーバおよび Sun Fire V65x サーバ に必要なデバイスドライバ

### Ethernet ドライバ

Sun Fire V60x サーバと Sun Fire V65x サーバ上のギガビット Ethernet コントローラには、Intel PRO/1000 Network Interface (e1000) ドライバが必要です。

弊社では、このドライバのバージョン 4.4.19 以降のインストールを推奨しています。バージョン 4.4.19 は、弊社で互換性テストに使用された Ethernet ドライバであり、インストールに問題がなく、事前に設定されたテストケースでも正常に動作することが確認されています。

e1000 ソース tar ファイル内の Intel README ファイルに、このドライバの構築方法が記載されています。この情報は、次の URL から HTML フォーマットでオンラインでアクセスできます。

<http://www.intel.com/support/network/adapter/1000/e1000.htm>

Intel ドライバをダウンロードするには、次のサポートサイトを利用してください。

[http://appsr.intel.com/scripts-df/support\\_intel.asp](http://appsr.intel.com/scripts-df/support_intel.asp)

- 「e1000 4.4.19」で検索すれば、ダウンロードする当該 tar ファイルが見つかります。

## SCSI ドライバ

Sun Fire V60x サーバおよび Sun Fire V65x サーバは、最新のディストリビューションでのみサポートされる Ultra 320 SCSI コントローラを実装しています。

弊社認定のアドオンカードだけを使用したい場合は、このドライバのバージョン 1.3.7 以降をインストールする必要があります。弊社認定の PCI-33 アドオンカードを使用したい場合は、このドライバのバージョン 1.3.10 以降をインストールする必要があります。

バージョン 1.3.7 と 1.3.10 は共に、弊社で互換性テストに使用されており、インストールに問題がなく、事前に設定されたテストケースでも正常に動作することが確認されています。

これら最新の SCSI ドライバは、次の開発者向けサイトからダウンロードできます。  
<http://people.freebsd.org/~gibbs/linux/>

---

# 設定ファイルのカスタマイズ

設定ファイルはカスタマイズできます。

カスタマイズを行うには、設定が上書きされないように Allstart モジュールに通知するコメント (Allstart: static) を、設定ファイルに追加します。

コメントは、行頭であれば、ファイルの任意の場所に挿入できます。いくつか例を示します。

```
/etc/exports => # Allstart: static
/etc/dhcpd.conf => # Allstart: static
/tftpboot/pxelinux.cfg/* => # Allstart: static
/scs/share/allstart/config/ks-*.cfg => # Allstart: static
/scs/share/allstart/config/ay-*.xml => <!-- # Allstart: static -->
```

Allstart で生成されたファイルに、<comment> <date> エントリが追加されました。

他のサービスと設定を共有するファイルについても、カスタマイズが可能です。設定ファイルの次の行の下に、カスタマイズする行を追加します。

Put custom additions below (Do not change/remove this line)

この構文では、次の 2 つの設定ファイルを使用できます。

```
/etc/dhcpd.conf
/etc/exports
```

---

# トラブルシューティング

起動を完了して、クライアントが RPM を読み込んでいれば、インストールは適切に行われています。

## Terminal Windows

Terminal Windows はビルドのプロセス時に問題をデバッグする際に有効なツールです。

ビルド対象のクライアント上で **Ctrl-Alt-<Fx>** と押すと、Terminal Windows 間を移動することができます。次のような Terminal Windows があります。

- **ctrl-alt-F1:** X11 のインストールに継続する前の初期コンソール
- **ctrl-alt-F2:** インストールカーネルが実行された場合にのみ使用可能になるシェルアクセス。autoyast ログファイルは /var/log/YaST2/ にあります。
- **ctrl-alt-F3:** インストールメッセージ
- **ctrl-alt-F4:** カーネルメッセージ
- **ctrl-alt-F7:** X11 インストール画面 (X11 が実行中の場合)

## 起動時の問題

### DHCP サーバまたは PXE ブートでの問題

DHCP サーバが動作していない、あるいは PXE 起動を制御しているファイルにエラーがある場合は、起動に失敗することがあります。

### 解決法

そのようなケースでは、次のコマンドを実行してみてください。

```
run tftp localhost
tftp> get pxelinux.0
```

次のような応答を受け取るはずです。

```
Received 10205 bytes in 0.1 seconds
```

この操作が成功しない場合は、次の項目を確認してください。

1. tftp が有効化されていること。  
`chkconfig --list |grep tftp`
2. xinetd が動作していること。  
`/etc/init.d/xinetd restart`
3. /tftpboot/pxelinux.0 が存在し、パーミッション 644 に設定されていること。
4. /tftpboot で、パーミッション 755 に設定されていること。
5. dhcpd が起動され、/etc/dhcpd.conf ファイル内にクライアント MAC アドレスのエントリが存在すること。
6. /tftpboot/pxelinux.cfg/netboot-\$mac が存在すること。
7. netboot-\$mac にシンボリックリンクする /tftpboot/pxelinux.cfg ファイル内の hex ファイルが、クライアントの作成時に入力される hex 形式の IP アドレスになっていること。

## pxelinux.0 のロード後にインストールプロセスがハングする

### 解決法

tftp デーモンに関するログを有効にする

Sun Control Station サーバの root ユーザーとして、/etc/xinetd.d/tftp ファイルを編集します。次のオプションを server\_args 行に追加します。

```
server_args = -l -s /tftpboot
```

---

**注** - Red Hat 7.3 の古いバージョンの tftp では、-l ではなく、-v オプションを使用する場合があります。これを確認するには、man ページで in.tftpd について調べてください。

---

次に、クライアントをネットブートして、次のコマンドを実行します。

```
tail -f /var/log/messages
```

Control Station サーバで、次のようなメッセージが表示されるはずです。

```
Mar  7 19:03:28 lx50 in.tftpd[31083]: sending pxelinux.0
Mar  7 19:03:28 lx50 in.tftpd[31084]: sending pxelinux.cfg/0A010A15
Mar  7 19:03:28 lx50 in.tftpd[31085]: sending JDSSUN-8.1-linux
Mar  7 19:03:29 lx50 in.tftpd[31086]: sending JDSSUN-8.1-initrd
```

送信対象が JDS SUN-8.1-linux だけであり、クライアントに接続されている USB デバイス ( キーボードやマウスを含む ) のあることがわかっている場合は、そのデバイスを外してからもう一度クライアントをネットブートしてみてください。

考えられるもう一つの解決法は、BIOS で USB の旧式のサポートをオフにすることです。

## クライアント構成で起こり得る問題

### 解決法

クライアント構成で選択したブート インタフェースが、DHCP リクエストが送信される際に使用されるインタフェースと適合していることを確認します。

Terminal Windows で、Ctrl-Alt-F3 を押して、インストールメッセージを表示します。

## カーネルのブート中にビルドプロセスがハングする

### 解決法

クライアントの「Configure Install Boot Information」画面で、カーネルパラメータに次のような入力を追加します。

最初に、次を試してください。

```
apm=off acpi=off
```

これで動作しなければ、failsafe モードに次のようなパラメータを入力します。

```
ide=nodma apm=off acpi=off vga=normal nosmp noapic
```

---

**注** - 「Kernel Parameter」フィールドについては、51 ページの「新規クライアントの追加」および 図 2-28 を参照してください。

---

## インストール時の問題

インストールが失敗するのは、多くの場合、システムが  
/tftpboot/pxelinux.cfg/netboot-\$mac 内にリストされる ay-\$mac.xml  
(Sun JDS の場合) または ks-\$mac.cfg (Red Hat の場合) を見つけられないためです。

また、システムがインストールに必要なハードウェアを見つけれない (たとえば、適切な SCSI ドライバが読み込めない) ために、この段階でインストールが失敗することもあります。

- NFS の使用時は、portmap および nfs サービスが起動されていることを確認してください。
- HTTP の使用時は、<http://x.x.x.x/allstart/ksconfig/> を参照してみてください。ここで、<x.x.x.x> は使用するクライアントの IP アドレスです。

ksconfig ファイル内にエラーがあれば、ここで問題が明らかになります。問題としては、無効なディスクパーティション設定や、無効なパッケージ設定などがあります。

- Sun JDS の場合は、次のファイル内のエラーを訂正します。

/scs/share/allstart/config/ay-\$mac.xml.

- Red Hat の場合は、次のファイル内のエラーを訂正します。

/scs/share/allstart/config/ks-\$mac.cfg.

起動を完了して、クライアントが RPM を読み込んでいれば、インストールは適切に行われています。

## AllStart クライアントの再ビルド

クライアントをあるオペレーティングシステムから別のオペレーティングシステム向けに再ビルドする場合、ディスクのパーティションに関するエラーが発生することがあります。これを訂正するには、次のことを試してください。

1. クライアントシステムの電源を一度切断してからもう一度投入し、ハードリセットを行います。

その後、クライアントを再ブートして、そのクライアント上でもう一度ビルドプロセスを実行します。

2. これでもエラーが訂正されない場合は、ご使用のハードディスクドライブに低レベルのフォーマットを行います。

その後、クライアントを再ブートして、そのクライアント上でもう一度ビルドプロセスを実行します。

## Sun JDS クライアントのビルド時にシリアルコンソールの出力が中断される

Sun JDS クライアントのビルドプロセスで、出力をシリアルコンソールにリダイレクトすることができます。その場合、ビルドプロセスの実行中にシリアルコンソールを切断しないでください。

ビルドプロセスの実行中に切断を行うと、ビルドが中断されたり、ビルドプロセスが異常終了する場合があります。

シリアルコンソールに接続し直すと、ビルドプロセスは継続して行われる場合もありますが、しない場合もあります。これは使用中のシリアルコンソールのソフトウェアによって左右されます。

## Sun JDS クライアントでのカーネルパラメータ

---

**注** - 下記の「Kernel Parameter」フィールドについては、51 ページの「新規クライアントの追加」および 図 2-28 を参照してください。

---

Sun JDS クライアントを作成している場合、次のカーネルパラメータを指定する必要があります。

- Sun™ LX50 サーバの場合、引数 `acpi=OFF` を追加します。  
これは Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) 機能をオフにします。
- ホワイต์-ボックス サーバの場合はすべて、引数 `apm=OFF` を追加します。  
これは Advanced Power Management (APM) 機能をオフにします。  
これらのパラメータが設定されていない場合は、設定されるようにクライアントを修正してください。62 ページの「クライアントの修正」を参照してください。

# Sun JDS クライアントのビルド

## フレーム-バッファの問題

エラーメッセージ: "Press <RETURN> to see the video modes available, <SPACE> to continue or wait 30 secs."

## 解決法

このエラーメッセージが表示された場合は、選択しているフレームバッファが正しくありません。これではクライアントのビルド後に X11 が正しく開始されません。

このフレームバッファ値は、このクライアントのプロファイルの X11 構成オプションに設定された、解像度と色深度の設定値に基づいています (34 ページの「X Window の設定」を参照してください)。「X11 設定を自動的に検出しない」を選択している場合、デフォルト値は「1024 x 768 x 16」です。

必要に応じて、このパラメータはクライアントの「Configure Install Boot Information」画面で上書きできます。クライアントのカーネルパラメータに次のような行を追加します。

フレームバッファがインストールされていない場合

```
vga=normal
```

フレームバッファを別のモードに設定します。上記のプロンプトで、好みのモードでスキャンを行い、対応する 16 進値をここに入力します。たとえば、次のように入力します。

```
vga=0x31e
```

---

**注** - 「Kernel Parameter」フィールドについては、51 ページの「新規クライアントの追加」および 図 2-28 を参照してください。

---

Control Station の UI によってこのパラメータを変更したくない場合は、ファイル /tftpboot/pxelinux.cfg/netboot-\* を編集します。ここで、\* は MAC アドレスまたは default-[name] で、これはクライアントのタイプによって決まります。このファイルの vga= パラメータを修正します。

---

**注** - ペイロード、プロファイル、またはクライアントを修正する場合は、Control Station の UI によってこれらの変更を上書きします。詳細は、77 ページの「設定ファイルのカスタマイズ」を参照してください。

---

すでにユニットをビルド済みであるにも関わらずこのエラーメッセージが表示され、表示されないようにしたい場合は、ファイル /boot/grub/menu.lst を編集します。vga= パラメータを上記のように変更します。

詳細は、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.tldp.org/HOWTO/Framebuffer-HOWTO.html>

## X11 の構成上の問題

Sun JDS クライアント上でのビルドプロセスの完了後に X11 が起動しない。

### 解決法

フレームバッファが正しく機能していることを確認します。フレームバッファの問題を訂正するのが、X11 が正しく動作していることを確認する最も手っ取り早い方法です。

83 ページの「フレーム-バッファの問題」を参照してください。